無產階級戰鬪雜誌

進め

無產階級は
即時合同を誓約せよ

定價十錢

第七年◆二月◆第二號

昭和三年十二月廿八日印刷納本

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

本號一瞥

卷頭言 ……
五黨合同協議會批判 …… 羽田光雄
分裂主義を克服して合同に進め …… 吉崎惠
結合の前の分離 ……
◇一勞働者の見た知識階級問題 …… 辻井民之助
社民黨大會傍聽記 …… 高木輝夫

時評
△國民政府に反噬する支那大衆 …… 佐々木徹三
△帝都の不安 …… 清水寛一
△第五十六議會迫る …… 同

靑年運動の戰線確立への鬪爭 …… 上杉定義
血稅納行者におくる …… 伊倉繁郎

全土戰報
小作爭議暴壓模擬演習へ抗議 …… 全國農民組合
頻發する差別事件に抗議せよ …… 愛媛支局
北大の男爵と放校 …… 北大一學生
無產靑年の大同團結へ …… 日本無產靑年同盟知多支部準備會
第一戰靑年聯盟のその後の鬪爭 …… 島根支局
島根支部黨機關を濫用す …… 同
軍國主義への戰ひ …… 芝浦進め讀者會一生
靑年同盟準備會生る …… 新潟支局
潔く鬪爭の中へ …… 山梨前敬員
縣會を民衆の手に …… 橫濱支局

搾取行刑政策と自由勞働者の失業關係 …… 加藤利藏
當世鬪士氣質 …… 永田繁澄
社會主義運動思出話（特別讀物）…… 岡野辰之介
■― 進め社だより ― 時事日誌 ―■
黎明の小作人（創作）…… 中島安太郎
■四方山雜詠（短歌）森彬雄 籠の鳥（唄）尼ケ崎支局
老勞働者（創作）…… 吉田金重

解放社
◇東京芝區新櫻田町十九
◇振替東京三六九四四番

特
◇日記年鑑顧問官◇萬人必携贈答用
◇注文殺倒將絕品◇勞農工商大至急

『解放』十一月
『年鑑日記』號
【月次大要】

解放社（價半圓）四年版
大衆年鑑日記

1 年鑑
◇四年東西陰陽暦◇
◇郵便小包電信料◇
◇世界各國度量衡◇
◇全利平合制（？）◇
◇世界大衆運動日誌◇
◇日本大衆運動日誌◇
◇大衆團體現勢◇
◇政治經濟社會論◇
◇國表統計年百式◇
◇團體名簿約二千◇
◇歴史年鑑二十頁◇

2 日記
◇新案日記滿載◇

3 附錄
◇大衆法律十原則◇
◇大衆法律年別表◇
◇各種稅則圖解表◇
◇大衆法令約百頁◇
◇必讀書籍目錄表◇

長
◇便利重寶御經濟◇美裝堅牢第三種◇
◇辭典懷中活動的◇机上便覽大衆品◇

解放
◇石川世界社會運動史
◇岡氏日本社會運動史
◇佐倉氏「女工虐待史」
◇山內「社會思想解說」
◇英國婦人勞働運動史
◇守田世界革命家列傳
◇尾瀨「革命藝術大系」
◇「地震憲兵火事巡査」
◇杉榮大家傑作集上下
◇名家隨筆第二冊刊行
◇幸德全集上「名文集」
◇幸德全集中「書簡集」
◇中西氏傑作「武左一揆」
◇神近市子女史傑作集
◇小川未明氏傑作選集
◇新居格氏傑作選集
◇山田清三郎氏傑作集
◇青野季吉隨筆論文集
◇近藤榮藏革命運動史
◇「古今東西理想鄕譚」
◇新興消費組合之卷

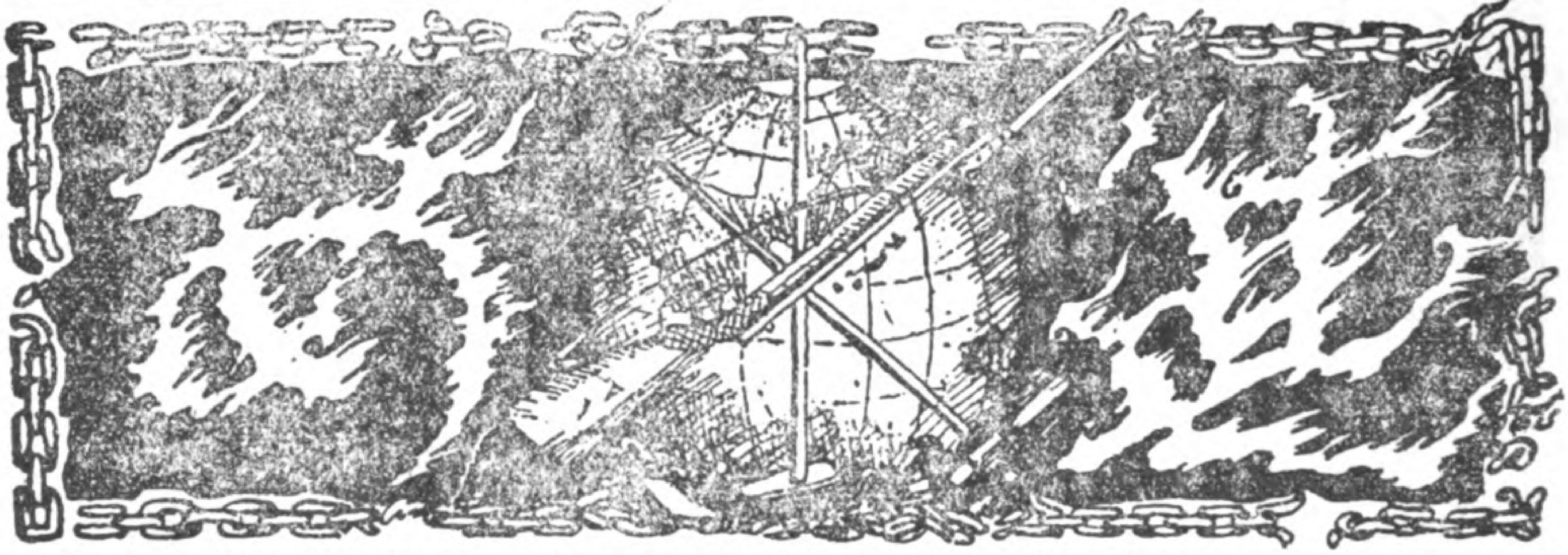
月刊半圓但書者河採
三月一回の割で禁止
完讀希望者は要前金

每月續刊行
但三冊に一冊は禁止
登錄壹圓
送代壹冊拾錢
印刷中斷版もある

半円版
各國社會運動史全集
◇以後廣告せず
◇時々禁止の虞
◇完買金納五圓
◇月刊全十二冊
◇英獨佛伊西日支殖民印中北歐洲露◇
◇米南北東亞巴爾幹各國一冊各參百頁內外專門家分擔四冊完結◇

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

萬國の無產者團結せよ



第七年◆戰鬪◆進め◆雜誌◆第一號

更に十二黨合同へ

×××以來、支配階級の嵐の如き暴壓を前にして、全無產大衆の胸底にいやが上にも燃えあがつたものは、全無產黨の統一、力を合しての抗爭の慾求であつた。「農民は農民黨」へのスローガン、或ひは地方地方に閉ぢこもらんとする地方政黨の反大衆的迷夢は、この大衆の進出の障害となつた。

階級的大衆統一主義の勝利、單一無產政黨主義の勇ましき輝き。今や、日勞黨を中心とする民憲、農民、大衆、中部民衆の五黨合同協議會は開かれ、十二月二十日をもつて、愈々三十萬の逞しい勞働者農民の手によつて守られた、我等の戰鬪艦は船出する事となつた。

我等の戰鬪艦の上に高く揭げられ、碧空に翻へる眞紅の旗。

あゝこれこそ、われわれ無產階級が長き分裂對立の渦中にあつて、何時、如何なる瞬間においても等しく待望せる輝ける光輝であつたのだ。この統一主義の大旆に翩おさらせてゐるものは、單に五黨の黨員のみではない。見よ！社會民衆黨の中堅、關西プロレタリアートの黨大會における「社會民衆黨をして五黨合同に參加させよ。われらは統一を要望する」と一線亂れず戰つたことを、更に見よ、新黨準備會における反主幹主義潮流の動き。更に他方廣汎なる未組織大衆の間より從來のあまりにも、みにくき分裂抗爭からくる傍觀的態度を一擲して「これぞ我等の政黨である」と拂然として馳參じんとする形勢を見よ、

全無產大衆の合同への鯨波を堰き止めるには、政府の分裂政策と、左右兩翼の分裂主義者の反階級的本質はすでに白日の下にあばかれてゐるのだ。

大衆政黨無用論、新黨準備會即××黨論をふりかざし、一方いやが上にも改良主義の陣內へと退却せんとする大右翼結成論をふりかざし分裂線上の亂舞を續ける左右兩翼の極端主義者の指導下に階級的警覺分子が何時までも盲從するものではない。今や無產階級の決定的潮流は、大右翼結成論と戰鬪的プロレタリアートの對立の激化、來るべき十二月二十二日の新黨準備會の結黨大會を機とする極左小兒病者の完全なる孤立化、更に、五黨合同協議會の內部における組合同盟の反對理由は、社民黨關西派の合同參加への進出と組合同盟大衆の積極的働きかけと相呼應して、急速に解消されるべき運命にある。かゝる狀勢の上に築かれるわれらの目標は、全無產黨の合同へ五黨合同より十二黨合同へのスローガンでなければならぬ。

長きにわたる支配階級と左右兩翼の分裂主義にじうりんされ滿身創痍を受けた無產大衆の心は、今や希望の光りに照らし出された。統一主義の絕へざる努力は、絕望より希望を戰ひ取つた。

われわれは、戰線統一のために不斷に戰はれ來たつた大衆諸君に心からなる敬意を表すると共に、從來の對立分裂より生ずる一切の感情を階級的大義の前に放てきしてこの合同を完成されん事を望むものだ。吾人も微力ながら、その一兵卒として戰はん事を誓ふ。

いざ、全土の勞働者、農民諸君、

我等の戰鬪艦は轟きわたる歡呼の中にいかりを切つて船出した。舵を誤るな。社會主義への航海路に出沒する敵は多いぞ、砲彈を用意せよ、一人で、波浪の爲めにさらはれるな、五黨合同より十二黨合同へ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

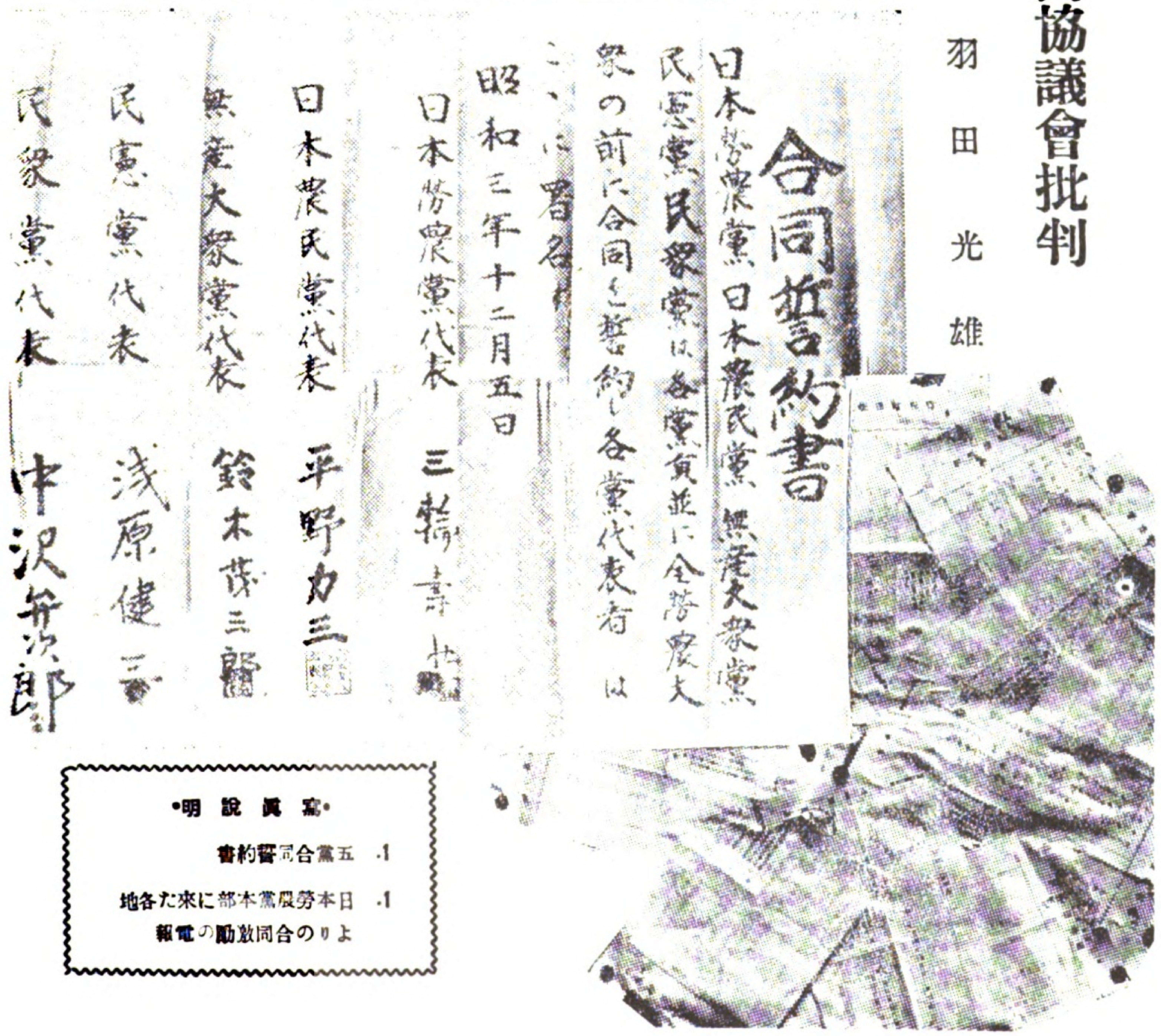
五黨合同協議會批判

羽田光雄

（一）統一主義の勝利

日本勞農黨、日本農民黨、中部民衆黨、八幡民憲黨、無產大衆黨の五黨合同協議會は十二月五日午後三時より成立し合同大會は來る十二月二十日に開催する事となつた。この合同大會がそう容易に進行するとは思はれないが何ち、既に日勞黨內部にあつて、無產大衆黨をふくめての合同に反對である理由によつて組合同盟は相當強硬の態度を持してをり、麻生書記長の辭任騷ぎなどあつて紛糾してはゐるものゝ、すでに戰線統一が全大衆の要望である以上、この合同も執拗なる努力の連續によつて完成されるであらう。

分裂と對立が如何に有害無益のものであるかといふ事が、はつきり大衆の中に浸潤して來た。大右翼結成をもつて理想とする社民黨內部においても過日の社會民衆黨大會において「五黨協議會に代表を參加せよ」の聲が如何に秩序正しく、赤松・松岡君一派に肉迫した事か、或ひは新黨準備會內の反大山細迫派の、やゝもすれば合法的大衆政黨の認識に向はんとする本部派に反抗し、あく迄結黨を完成せしめ、この單一無產政黨の旗の下に馳參ぜんとしてゐるではないか、單一無產政黨は不可能なりとの左右兩翼の分裂主義者、或は單一無產政黨實現の困難なる道に困惑したあきらめ主義の上に立つ大右翼結成論大右翼結成者の中傷謀略は今や全くその信用を地に落した。人、或は云はん、今回の五黨合同は、未だ單一無



•寫眞說明•

1. 五黨合同誓約書

1. 日本勞農黨本部に來た各地よりの合同激勵の電報

産政黨ではない、社民黨、新黨準備會に何等合同の提議をなさぬではないか。彼等を除外しての合同は何らその性質を具へてはゐないと。しかしながら、吾人は全部聚まらねば單一無産黨でないといふ如き公式的理論に耳を傾ける事は出來ない。勿論理想的には未だ缺けてゐる點が甚だ多い。しかし、この五黨合同は大右翼結成でもない。又大左翼結成でもない。左右中間のあらゆる要素を包含してゐる。元來單一無産政黨主義は左右兩翼の如何を問はず、現下の支配階級の攻勢に對抗する爲めに合同し、大衆的共同戰線を樹立する事である。されば、たとへ完全な姿でないにしても、五黨の合同は、左翼たる無産大衆黨をふくみ又極右翼たる日本農民黨をふくんでゐて、單一無産政黨は出來るものであるといふ事を、左右の分裂主義によつて今迄妨げられて來たところの大衆の前に展開したものであるからして、大衆がこの合同を双手を擧げて迎ふる事は自明である。そして單一無産政黨の可能なるを自ら現したところの五黨合同は、今は愈々完全なる大衆政黨たるの本分を發揮する事は何人も異論なく豫想するところである。すでに、前述した如く社民黨大衆、新黨準備會の一潮流は明かに單一無産政黨の實現に向つて邁進しつゝあるのた。

されば、吾人は今次の五黨合同を單一無産政黨主義の勝利であると斷言して敢て憚らない。何時の時代においても、ものにケチをつけ反對するものはたへないであらうが、それと大勢とは何等の影響がない。

「合同の前途に對する外界の揣摩臆測に拘らず、愈々五黨協議會の運びに至つた。分裂と排擠との暗雲を掃蕩して合同統一の烽火は高く揭げられた」のである。

單一無産政黨主義の勝利、しかし、吾等はこの合同の完成に努力すると同時に、更に合同の埒外に取り殘された社民黨及び新黨準備會に向つて、積極的進出を爲さねばならない。吾人はこの單一無産政黨主義の立場に立つてこれから、各黨各派の批判を批判するのであるが、その前に合同までの經過及び動向を簡單に一瞥しておく必要を認める。

（二）合同への經過

十二月一日九州民憲黨の淺原氏が日勞黨を訪れ、日勞黨との即時合同を提議し、同日正午より開かれつゝあつた日本農民黨中央委員會においても同じく日勞黨との合同が決定され、直に平野氏、須貝氏等が日勞黨を訪れ、これ又即時合同すべきを提議した。一方、無産大衆黨においても同日の緊急擴大常任委員會で協議の結果、直に日勞黨に對して、各派の合同協議會を提議する事に決し鈴木氏大沼氏が、これまた日勞黨を訪問した。こゝに於て、合同問題は正に急轉直下式の展開を見る事となつた

九州民憲黨の提議の要項

無産政黨の合同は全大衆の要望である。支配階級の彈壓が深刻果敢になればなる程吾等は合同を要求する。この時、吾等の爲すべき所は、過去の一切を清算して一路合同に邁進せねばならぬ。

此處に、民憲黨は、指導精神を同じうし、しかも合同の爲めに邁進されつゝある貴日本勞農黨の名によつて全合同が即時提唱されん事を希望する。

日本農民黨の提議の要項

日本農民黨は貴黨に對して左の條件、希望を附して即時合同を提議する。

條件及希望

一、兩黨は解黨して即時合同新政黨を樹立する事、九州民憲黨、中部民衆黨に對しては貴黨より合同を提唱されたし。無産大衆黨に關しては一切を貴黨に一任する。

二、新政黨黨名、役員、合同期日、その他細目にわたる事項は、兩黨より選出の合同準備委員會に一任する事

三、新政黨は日本國情に立脚する事。

無産大衆黨の提議の要項

無産政黨の全合同による統一政黨を實現する爲め、貴黨が率先に大右翼結成に向つて闘はれつゝある事に敬意を表します。

貴黨に現在の全狀情に鑑み、絶對無條件にて無産政黨の全合同による統一への第一步として、先づ可能なる範圍における各黨間においての合同問題についての協議會を開きたいと思ひます。右の協議會は十二月五日前後に開きたいとの希望をも申添へて、協議會の召集に付する件を貴黨にお任せ致します。

以上三黨よりの合同提議を受取つた日本勞農黨は折柄開催中の中央執行委員會の協議によつて直に問題を統一委員會に付託する事となつたが、問題は俄然紛糾した。即ち同黨內の組合同盟派、棚橋、今村、安藤の諸氏は無産大衆黨をふくめての合同は立黨の精神たる全無産政黨の合同、即ち社民黨をふくめての合同に障害を來たすものであると極力反對した。これは先般の日勞黨第五回擴大中央委員會における主張と同様であつた。しかし、その他は全部合同を決行すべしと主張し、合同論者が大多數をもつて壓倒した。かくて、統一委員會の空氣のまゝ、執行委員會に移したのである。

執行委員會は二日徹夜に渡つて晝夜の別を問はず討議が續行されたのであるが、組合同盟は飽くまで強硬に自説を主張して譲らなかつた。しかし、こゝにおいても合同論者に壓倒され、遂に、四黨合同に向つて邁進する事に決定した。そして、十二月五日第一回合同協議會を開く事になり、三黨にその旨回答し中部民衆黨をこの協議會に誘致するため、執行委員を一名岐阜に派遣する事となつた。

日勞黨の聲明

合同の前途に對する外界の揣摩臆測に拘らず愈々四黨協議會の運びに至つた。分裂と排擠との暗雲を掃蕩して、合同統一の烽火は高く揭げられた。過去二ケ年の若干の成果！想へば我等は感慨無量である。我等は三友黨の諸君が、萬難を排して合同統一に向つて邁進するに至つた誠意を多とすると同時に、我等も又誠意をもつてこれに應答せんことを誓ふ。

虛心坦懷、階級的正道を求むる心こそ、全民衆の歸一する心情でなければならぬ。希くは一切の行き懸りを排して一大階級的大衆黨の結成を！、右我等の衷情を天下に聲明す。（昭和二年十二月三日）

かくて十二月五日、中部民衆黨を加へて五黨協議會は

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

開かれ、合同誓約書を作成し、各黨代表者の署名ありて愈々二十八日合同大會を開催する運びとなつた。

こうして合同にまで漕ぎつけて來たのであるが、それは大衆の要望であると云つてその動機を簡單に片付けてしまふ譯には行かない。何故なら、日本農民黨の平野氏民憲黨の淺原氏の如き古狸が、いや自他共に許す天下の策士が、そうむやむや何らの原因なくして、大衆の要望であるからと云つて合同を提議して來たとは思はれない。平野氏の如きはかつて同年初頭日勞黨に合同を申込み、突然掌を返すが如く振り切つて了つた合同防害の前科者である。これに限らず、日農黨内の合同論をおさへつける事には、妙を得たるところの策士である。何等かの原因がなければならぬ。恐らく、同黨の如き「農民は農民黨へ」のスローガンの如きが農民の信用を得なくなり、もはや黨が擴張の望みがなくなつたからではないか。又、九州民憲黨の如きは、社會民衆黨の爲めに壓倒されつゝあるとの事だ。しかし、こゝにおいては、かゝる原因を詳にするだけの紙數もないし又、それは合同に對する一つの疑心であるから、吾人は論旨を前方に進める。

（三）組合同盟派と社民黨大會

組合同盟が、日勞黨内にあつて無産大衆黨をふくめての合同に不賛成たとして、一大紛糾をもたらした。では組合同盟は何故反對したのか、

曰く。

「無産大衆黨をふくめての合同を今日勞黨が賛成したら社民黨先進分子の努力を水泡に歸せしめるものであり、社民黨先進分子の前進と協力せん爲め努力して來たところの、我が組合同盟の立場を無にするものだ」と。この組合同盟の態度は前述したとほり、日勞黨第五回擴大中央委員會においても強硬に主張されたところである。この反對論に對して無産大衆黨、及び日勞黨内の全國農民組合派は「關西派社民黨の進出は、單に日勞黨とのみの合同論ではない、無産大衆黨をふくめての合同論である」と酬ひ、單一無産政黨をめぐる戰術上の相異よりくる爭ひが續いたのであつた。日勞黨第五回擴大中央委員會においては、分裂の世評まで生れたほどであつたか、「吾黨は大右翼結成、及び大左翼結成にも反對だ、それは無産黨を永遠に分裂せしめるものだから、飽迄單一無産大衆政黨の實現を期す云々」の決議によつて一時落着いたが、この兩派の爭ひは、事ある毎に表面に現れてくる性質をもつてゐた。果して、今度の三黨合同の申込みにふたゝびその埋れたる嵐はおこつた。

「無産大衆黨の様な頭はかりの黨と合同したはかりに社民黨と云ふ反動化さんとする政黨を愈々彼方に追ひやる事は、吾が日勞黨が眞に階級的正道を歩む限り誤謬である。吾々は、現在の合同論者に、社民黨の先進分子がどういふ意見をもつてゐるかを、よく見て貰ひたい。社會民衆黨大會はこの絶好の機會だ。」と組合同盟は云ふ。

されは、十二月九日より三日間、東京において開かれる社民黨大會は正にこの五黨協議會の上に重大なる波紋をえがくものであつた。然らは、この社民黨大會における關西派先進分子の意見とは如何なるものであつたか。筆者はこの大會を傍聽して、親しく代議員諸氏の意見を聽く事が出來たが、それは、組合同盟の諸氏の認識の誤りなるを立證するものであつた。即ち、社民黨大會において、本山君、山内君を初めとする關西派代議員は、本部の赤松君等の大右翼結成論に肉迫して、社會民衆黨は、無産階級の戰線統一のために最近開かれつゝあるところの五黨合同協議會に積極的に參加すべしと主張した。全くこの關西派社民黨大衆の合同論はすでに明白である。組合同盟の期待は裏切られざるを得なかつた。かくして五黨協議會は先づ一個の強敵を打破つたのである。

（四）新黨準備會の批判

しかし、吾々は内における合同反對論を克服すると同時に、更に對外的に反對論をおし切つて行かねはならない。

然らは、新黨準備會はこの合同をどう見たか、勞働農民新聞第七十一號は「中間派の合同と新黨準備會の任務」と題して、曰く。「勞農黨解散以來引續く左翼戰線への彈壓も決して戰鬪的勞農大衆を壓殺し得なかつた。否反對に我が新黨準備會を鐵火の試練の中に鍛へ上げ、暴壓の砲火の中に支部及び支部聯合の數は激増し戰鬪力は強化した。」

「最も勇敢に戰ひ最も多數な鬪爭に動員し得たものは實に彼等の合法政黨にあらずして、政府が死物狂ひに壓し殺さうとする我が新黨準備會に外ならなかつた」

「合法政黨こそ最も無力であり、支配階級に屈服する事によつて合法性を頂戴してゐるに過ぎぬ事を示したではないか」

「しかも新黨準備會は、來るべき創立大會において全國の戰鬪的勞農代表を集めて戰鬪的運動方針を大衆的に討議しようとしてゐる。政府及び社會民主主義者は恐怖せざるを得ない。この恐怖が、一方トーマ來朝を機とする大右翼結成となり、同時に之に追從する日本農民黨から無産大衆黨に至る中間諸派の合同となつて現はれたのた。」

「彼等は今や××黨及び新黨準備會に對立して社會民主主義者の攻守同盟を結ぶに至つた」

と論じ、新黨準備會の擴大、戰鬪力の強化を自己暴露し合法政黨は何もなし得ざるものであつたと斷定してゐる。而して、こゝにこそ彼等一派の玉砕主義の根據があるのた。しかしながら、新黨内には明かに結黨をめぐる二つの潮流がある。

先づ、無産者新聞十二月五日號の社説「新黨準備會の結黨とわれわれの態度」をもつて語らしめよ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

「しかし乍ら、新黨準備會の結黨運動に呼應して若干の合法主義者の策動があつた。彼等は無産大衆黨の例を倣らつて、新黨に階級的立場を賣ることをしようとし、今でもその策動を續けてゐる。（中略）若干の合法主義者の策動にも拘らず、新黨準備會は今なほ依然として鬪爭主義の傾向が壓倒的多數を占めてゐる。過日開催された全國支部代表者會議は「百度解散、百度結黨」の玉碎主義の立場が殆んど滿場の支持を得たこの事である。」と新黨準備會内の二傾向を對照し、所謂その「合法主義」者を排撃して云ふ。

「合法主義者の若干の讓歩は明日は支配階級に對する絶對的屈服となるであらう」となし合法政黨否認論が展開される。曰く

「吾々は嘗つて政黨と動員組織との區別に對するハッキリした認識を缺いてゐたために、××黨以外に一「合法的無産政黨」が必要であるか如き誤謬に陷つた。このプロレタリヤの政黨は×××以外に絶對に有得ない」

然らば、新黨準備會の本質は何か、曰く

「新黨準備會は×××の活動によつて動員された鬪爭團體である。」

「然らば、新黨準備會は今日迄進めて來たその結黨運動を拋棄すべきか、否、斷じて否である。（中略）我々が來る二十二日全國會議を開催することに成功するならば、吾々は何よりもこの會議を鬪爭促進のために利用しなければならぬ。（即ち）勞働者、農民の利益のためには斷乎として支配階級に對する鬪爭を組織し、力を以て合法權を戰ひとると云ふ玉碎主義の立場を擇ぶものである。」

この所謂「×××によつて動員された新黨準備會」の合法性獲得の鬪爭は、必然的に、彼等をもつて云はしむるならば

「從つてこの場合合法性が問題となるのは、（大衆政黨としての新黨準備會の問題ではなくして―筆者）××黨の合法性の獲得である」。

以上によつて、新黨準備會をめぐる二つの傾向はすでに明かである。即ち、玉碎主義の立場をとるものは、大衆政黨卽××黨の、過去において彼等の犯し、一度は清算されたやに見えるところの誤謬をふたゝびもち出し合法政黨必要ない主義、大衆的共同戰線黨の歷史的存在を無視して、大衆と離れた前衛黨への結成へ向つて狂奔しつゝある。こゝにおいては、大衆的共同戰線黨確立のための五黨協議會は、彼等にあつては何等の意味をもなさないであらう。彼等にはたゞ××黨あるのみであつて大衆的共同戰線黨は眼中にはないのである。

「大衆に近づけ」と昨年コミンタンより叱責を受けた日本×××は嘗その當時においては勞働農民黨系の諸團體の中に足場を据へてゐたのである。しかし、今や日本×××にコミンタンの指令及ばず、日本に本部を有する新コミンタンは大衆より離れて、青年マルキストの[illegible]は天上へ天上へと邁進しつゝある。

この玉碎主義の一派に對抗するものは、あくまで結黨をつらぬかんとする一派である。彼等は全國の支部の新黨のこの方針より生ずる動搖をよく知つてゐる。されはあくまで合法政黨を獲得し、大衆の離散と減少に堪へんとしてゐる。新黨準備會にはこの兩派の爭ひがもつれてゐるのであつて、十二月二十二日の結黨が政府の彈壓によつて解散されたならば、その時こそ、新黨の完全な分裂の時代である。

が、根本においては、五黨合同に對する彼等の批判である。玉碎主義者は、かくして、その反大衆的なるが故に、五黨合同を目して、これ××黨に對立する攻守同盟であると云ふ。

（合法政黨無用論に就いての批判はすでにあらゆる機會において論じられてゐるから、こゝでは述べない）

（五）社會民衆黨の批判の批判

では、目を右翼に轉じて、社會民衆黨の批判を聽かう。

彼等の態度は過日の社民黨大會において、はつきり見たと同時に、五黨合同に參加せんとする戰鬪的勞働者の力強き前進を見た。以下、合同問題に絡んで論じられた赤松君の說明及び答辯に聽かう。曰く、

一、從來行はれたる單一無産政黨論は、明かに共産黨一派の自己中心的政略であつて今や欺瞞性は事實の上に暴露されてゐる。

二、吾人は單一無産政黨組織は不可能なる事を確認するのみならず、苟くも共産主義運動の存在する限り無産政黨の單一的結成は本質に不可なる事を認むる。

三、今次の五黨協議會は、この共産黨一派の働きかけと、今一つはボロ會社やボロ銀行の樣になつた日本農民黨や、九州民憲黨がどうにもかうにもやり切れなくなつたのでその彌縫策としての合同の申込みと二つの流れが主流となつてゐる。だから、この寄合世帶は到底鬪爭にやつて行く事が出來ない。すでに合同論、戰線統一論の本家本元の樣に云つてゐる日勞黨の內部でさへもめて麻生氏を初め、執行委員の二三が辭任騷ぎをやつてゐる。これを見ても到底この合同も長續きをしない。

四、吾々はこんな不眞面目な合同に參加する意志は毛頭もつてゐない

と、所謂「戰鬪的統一」を主張し、社會民主主義を指導精神とするものでない限り、絶對合同は出來ないと云ふこれに對して、戰鬪的總同盟大衆は、飽くまで大衆的共同戰線黨樹立の立場より、積極的に合同に參加しなければならぬと主張した。彼等は云ふ、この資本家地主政府の攻勢に對しては、吾々勞働者は、一切の反資本主義的勢力が糾合するにあらざれば、即ち、俸給生活者、小市民その他、その持てるイデオロギイの如何を問はず、その指導精神の如何を問はず一大勢力の下に參加して戰ふにあらざれば、到底、無産階級の解放へ進む事は出來ない社民黨は一路、單一共同戰線黨の樹立に向つて邁進しな

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

けれはならぬ。」と。

（六）　五黨合同より十二黨の合同へ

かくして、五黨合同による新政黨の確立は光輝ある光りに包まれてゐる。見よ、左右兩翼の強硬な反對論にもかゝはらず、事實上左右兩翼に位する大衆の間から、單一無產政黨結成への叫びを最早何人と雖もせき止める事は不可能である。社民黨大衆然り、新黨準備會の大衆又然り。反對するものは反對せしめよ。大勢はすでに決したのだ。よき火は遂に高く揭げられた。

しかし乍ら、こゝに吾人の特別の關心をもつものは、組合同盟の態度である。社民黨關西大衆の意見はすでにして、五黨協議會に向つて邁進しつゝあるのに、尚合同反對意見を強硬に有してゐるのは何故か。社民黨關西派への認識の誤謬より生ずる反對意見は止むを得ない。しかし、關西派社民黨の態度の明白なるにかゝはらず、又未だ一般組合同盟大衆の合同への熱望強きにかゝはらず未だ頑強に反對を續けるとは何事であるか。誤謬は何人にもある。しかし、その誤謬なるの明白になつた時はすみやかに過去を精算しなければならぬ。若この反對を續ける場合においては、反つて社民黨先進分子との提携を困難ならしめるものだ。組合同盟にして大右翼結成に贊成でないならば、直に合同の強化の爲めに邁進しなければならぬ。組合同盟も單一無產政黨主義には反對ではない。たゞ其實現の第一歩として社民黨との合同を主張したのである。が、社民黨を體としては、無產大衆黨のあるなしに拘らず、日勞黨との合同にも反對なのだ。たゞ、關西派先進分子と提携する爲めと云ふならば、關西派先進分子の意見と同樣であればよいのだ。組合同盟が眞に、無產政黨の合同に贊成であるならば、大右翼結成へ反對であるならば、合同を永久に拒否する本質をもつ社民黨幹部を目標とせずして、積極的に五黨合同に參加し強化し、以て關西社民黨の戰鬪的プロレタリアートと相呼應じて、大右翼結成の企てを紛碎しなければならない。

◎

吾人は以上の論點よりして、如何に大衆的統一主義が眞に階級的に正しいものであるかを知つた。如何なる中傷も總鬪も、この白光の前には完全に紛碎されるべきものだ。見よ全大衆の合同へ合同への叫びを。それは、一人よがりの玉碎主義や、プロレタリヤの躍進をおさへつける大右翼結成論では、とても、とてもふせぎ切れるものではない。

五黨合同を十二黨の合同へ
全土の勞働者農民諸君健鬪せよ。

分裂主義を克服して合同に進め！

吉　崎　　惠

一、

無產政黨の合同は、全無產階級の要望である、にも關らず今猶それが實際化されないのは何故であるか、それは一方に、支配階級の分裂政策があり、一方に福本イストの極左的戰術があるからである、日本の支配階級は賢明である、彼等は、日本の無產政黨の今日の努力が、勞働者、農民、小商人、月給取等一般無產階級、勤勞大衆の糾合であることをよく知つてゐる、從つて彼等はそれの妨害に全力をあげる、陰に陽に、彼等の採る分裂政策が、吾等の陣營に如何に強く深く影響してゐることか！

總同盟の第一回の分裂はその根本的な原因がそこにあつたにしろそれは徹頭徹尾左翼の失敗であつた、而も彼等はその失敗を意識せず當時の對立感情をそのまゝ、或ひは倍加して、あらゆる機會あらゆる場所に繰返して今日に到つた。それは正に支配階級の思ふつぼであり、支配階級の分裂政策に呼應し適應したところのものである、以上の二つのことが原因して今日の無產政黨の分裂がある、從つてこの二つの原因を除去し、征服することが、大衆的單一無產政黨を結成することであり、全無產階級の要望に備ふことである、

二、

現在我國の無產政黨は大體次の三つの勢力傾向に別たれる、社會民衆黨及それに接近する地方政黨、日勞黨を中心とする五黨合同協議會及それに接近する地方政黨、而して新黨準備會の指導範圍にあるそれぞれの支部準備會、

その中の社會民衆黨は、社會民主々義を以つてその指導方針としてゐる、無論社會民衆黨の内部には社會民主々義にさへ反對する保守的な勢力がある、それは組織的でもあり、かなり強大でもあるが、然し又一方にある無產階級的意識の上に立つ勢力に制肘されて社會民衆黨の中心指導精神を動かす迄に表面に現れて來ない、

五黨協議會の持つ内容は非常に復雜である、それは、日和見的機會主義者を中にして反動的な裏切者から眞正左翼の精鋭迄を含んでゐる、この協議會の誕生に就いては色んな風評があるが、然し、五黨の中に貫く無產階級の、合同の要望、及それをうけて動く左翼の力が、それに主要に作用したことは爭はれない事實である・而してその力は今後出來あがるであらう黨の内部にあつて、總て、決定的な力となり、その指導精神が黨の指導精神になる迄に發展するに相違ない、

新黨準備會は、假へ結黨出來るにしろ出來ないにしろ當分その存

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

在を續けてゆくであらう、彼等は既に大衆を吸引する力は持つてゐないが、その彼等の所謂「活潑なる闘爭」は、一部の若い經驗不足の勞働者や、神經的な學生や文學青年をその傘下に集め得る、而して極左的マルキシズムを旗じるしに飽迄思想團體的の存在を續けてゆくであらう。

右の如き情勢の中から、合同に動く力、反對の力、及中間派の力を一應分類してみると次の如くである、

社會民衆黨内部の無產階級意識に立つ勢力、五黨協議會中の左翼的な勢力、それが合同への勢力であり、社會民衆黨内部の保守的勢力、五黨協議會中の反動的立場にある勢力、及新黨準備會の勢力が合同反對への勢力である、而して社會民衆黨の中心を占める社會民主々義的の勢力及五黨協議會中の日和見機會主義者の勢力は、その本來の性質の故に、中間的な立場であつて、或る時は合同の力となり反對への力となる、而してそれは、兩者の力の優劣に依つて決定される、

三、

以上の見透しに依つて合同論者の今後の努力の方向は明かだ、一般的には社民黨及日勞黨内部の「合同へ」の勢力を強め、その内部の保守的、反動的な勢力を驅逐し解消してゆくこと、而してその一方新黨準備會の影響下から眞面目な勞働者や農民を切離してゆくこと、それであるがそのことが即ち資本家の分裂政策と戰ひ、極左翼の分裂主義を征服することでもある、

而らば社會民衆黨内部、五黨協議會内部にあるそれぞれ合同論者の探るべき態度方法は、それは、その事情に委し、當事者それ自身のみが知る。分裂主義を克服して全無產政黨の合同へ！

（一九二七、一二、一二）

時事日誌

自 十一月二十六日
至 十二月十六日

十一月二十六日（月）
天津排日運動猛烈となる

十一月二十七日（火）
米國勞働聯合第四十八年次大會開催 保守右傾甚しく露國承認案も影を潜む

十一月二十八日（水）
神奈川縣會議長問題より、紛擾し無產派議員三名拘留さる

十一月二十九日（木）
鈴木前内相外三大官市疑獄事件に關連し告發さる

十一月卅日（金）
十一月末現在内外國債總額九七億六千六百三十八萬五千圓（大藏省發表）來月より行はるる全露ソヴエート會議々員改選を前にし農民の反共產運動擡頭の報あり

十二月一日（土）
日本農民黨無產大衆黨より日本勞農黨に對し即時合同の申込をなし、日勞黨は之が成就の爲め誠意を披瀝すべき旨聲明す
早大新聞學會同雄辯會は學校當局の彈壓政策より解散を命ぜらる

十二月二日（日）
新黨俱樂部黨首床次竹次郎は田中首相と會見し政府との野合により支那視察に決す

十二月三日（月）
名古屋地方共產黨の裁判判決言渡さる。奉天親日派不當點禁等により脅威さる

十二月四日（火）
北大學生一千名同盟休校し學校の暴壓に抗す

十二月五日（水）
國際聯盟勞働局長アルベール・トーマ神戸着、同日の來着と共に右翼結成の機運助長さる。トーマ排擊同盟及び建國會は排擊のビラをまく。
十二月九日より就任の次期オーストリア新大統領にミクラス氏當選

十二月六日（木）
支那國民政府は明年二月一日より實施すべき新關稅々率を發表す
埼玉縣會滿場一致を以て公娼廢止を決議す
次期大統領にフーヴアー當選以來好況を極めし紐育株式市場は深刻なる金融難に襲はれ花形株以下暴落す

十二月七日（金）
支那各地の反日運動は容易に熄まず、北平反日會は日本紙幣使用禁止案を決議す

十二月九日（日）
社會民衆黨大會は今日より三日間芝協調會館に開催第七回全國農民組合會議を岐阜市に開催

十二月十日（月）
社民黨大會二日目アルベール・トーマ來つて祝辭 說をなす。
二十二の米國百貨店は合同して資本金二十億圓の一會社となる
北平に於る日本系銀行中華匯業銀行取付に遇ひ休業す

十二月十三日（木）
社會民衆黨大會最終日關西派總同盟の合同論者五黨合同協議會に參加すべしと主張せしも本部に壓倒され敗る。
南京反日會は江蘇省黨部指導下に外交部長王正廷を襲ひ「打倒田中之走狗床次」を高唱し、床次氏の宿舍は支那兵を以て護衞せらるゝに至る

十二月十四日（金）
經濟審議會は明年三月より五月に至る間に於て金解禁を斷行すべき旨答申す

十二月十五日（土）
反日運動各地に波及し上海警備司令部政治訓練部は公然床次排擊の聲明書を發す

十二月十六日（日）
宮崎縣會は女子師範移轉問題のため民衆のため襲擊され、知事官舍破壞さる

× × ×

社民黨第三回大會見聞記

合同派の大進出

高木輝夫

社會民衆黨大會は、未だ開かれざるに先立つて、既に合同派と反合同派との間には、抗爭の準備は整へられつゝあつた。合同派（所謂關西派）は十月三十日夜、社民、總同盟、官業勞働、海員組合等の幹部六十餘名、土佐堀青年會館に懇親會を開きて、「日勞黨との無條件合同」に意見を纒めて、本部に通達し、反合同派又これに對立して、合同派の勢力あなどるべからずと見て、「日勞黨内の左翼排除を條件としての合同」と言ふ修正案をもつて大會に望まんとした。これは日勞黨が出來ない相談として應ぜざる事を豫想して、又斯くなる事によつて、黨内に妥協說として「一應合同問題の打切り」を出して右翼結成に進まんがための策戰であつた。俄然十二月一日日農黨の合同提議により、五黨合同の成立の機運起りこの大會は、異狀なる注目の中にその幕を切つて落とした。

幾多の重要なる議案の審議、それに現はれる各派の論爭、國際勞働局長アルベート・トーマの來朝によつて、大會内に珍奇な情景も畫がかれ、これを逐條的に述べるべきではあるが、私は單に合同問題のみを取扱つて、充てを省略する。

この「無產政黨合同に關する件」は十二月十一日午後二時頃上提され、赤松克麿氏がその說明の任に當つた。

「我黨の態度は結黨以來一貫してゐる事であるから、この大會は我黨の一貫したる態度をいかにして現下の社會狀勢に適應して行くかを協議すればよい。茲に於て吾黨は「反共產黨的政黨の積極的合同を促進する」事を決議し、その態度を決定したい」と原案決議文を讀み、更にこの前文に註釋を加へつゝ說明を續ける。

「合同問題は大正十四年の農民勞働黨の結黨當時よりあつた事でブルヂヨアジーが帝國主義的攻勢を採る時は戰線を統一すべき事は當然である。しかし自分達は大義明分論であるからと言つて、直ちに之を受け入れる事は出來ぬ」そこで氏は合同論の起つた原因を二つに分ける

「合同論は共產黨一派より盛んに唱へられる。これは左翼の一つの戰術であつて、彼等自身の勢力が大衆的に展開されなくてはならないので、世界大戰以後第三インターナショナルが取つた運動方針に基づくものである。又一方は社會的に不利の立場にある政黨が、合同提議によつて、一時的に黨を救濟しようとして成すものであつて、それはボロ會社やボロ銀行が破產しかけた時に合同すると同じである」と皮肉り、自黨の態度にかへり

「吾黨は破產する樣ではなく、益々戰線は擴大して行きつゝあり、我黨としては、單に數的に大きくなる事ではなくして、どこ迄も同志的な有機的結合でなくてはならないのであるから指導精神が同一な政黨との合同に邁進すべきである」と結び、片山哲氏がこれを補足して、

「この合同問題は、一度執行部にかけ、更に中央委員會において眞面目に審議したものであつて、具體的方法は新中央委員會に一任されたい」と述べた。これより質問に移り、

「反共產黨的とあるが、これが具體的對照としての政黨の名について」（豐島支部藤沼氏）

「第三インターナショナルの直系、或はこれに指導されるの可能性あるもの以外を「反共產黨的」と言ふ（以下應答は光て赤松氏）

「目標となる具體的な政黨名」（藤沼氏）

「五黨合同は合同に價せず、その基礎は合理的でない日農黨と大衆黨とは餘りに指導精神に間隔がある。更に日農、民憲中部民衆は局面展開策であり、大衆黨は勞農黨の分派であつて、大衆を把握すればよい方針であり常に彼等の背後には細胞組織をもつて、右翼大衆を指導せんとしてゐる。日勞黨は戰線統一の親分ではあるが、それ自體組合同盟の如き有力團體はこの合同を反對してゐる。合同に關して圓滿な有機的な單一黨とはなり得ぬもし出來あがれば無產大衆黨と日勞黨の左翼勢力が共產黨的な政黨として運動を進めて行く時であつて、我々はこれを共產黨的と見る」

「前文の積極的對照は」（豐島支部岡田氏）

「具體的に言へば、八幡民衆、勞農民衆、佐世保民衆、横須賀民衆黨等でそれ以外は受け入れぬ」

「單一無產政黨を標榜するものと共同鬪爭をしないと言ふが、赤松氏自身勞農黨と衆議員選擧の際行ひ、又これと共同對策委員會をしたではないか」（東京石川氏）

「機械的に考へてはいかぬ。只原則として拒否するのである」等の質問戰を終つて討議に入つた。劈頭大阪の元山氏は

「原案に大體贊成ではあるが、具體的合同對策は委員會に一任するとしても、反共產黨に對しての見解を異にする。昨年の大會においては、第三インターの指令に盲從するものを共產黨と成し、批判的態度を取るものは反

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

共產黨とするとの事を是認してゐる。合同の必要は對支配階級の問題であるから凡ての感情を捨て、支配階級の攻勢と分割支配に抗すべきだ。合同は共產黨の聲のみでなく大衆の聲であるから五黨合同協議會には是非感情を捨て、參加すべきである。日勞黨の左翼が共產黨的でない事は河野氏の最近の改造の論文を見ても合法性を無視してゐない事でも知れるし、第三インターが左翼的勢力を絶對に[illegible]してはいけないと言ふ指令に反して、別黨を結成した事をもつても、無產大衆黨は共產黨ではない以上の理由によつて、五黨合同協議會は「反共產黨的政黨」である故是非參加して欲しい」と合同派の意見を述べ大阪第一支部の熊本氏も元山案を支持して協議會參加を強調し、東京第六區支部渡邊氏は「今回の合同は一部幹部によつて成されたもので合同に値しない。」と原案を支持し、松岡氏は

「これは既に大會直前の中央委員會で意見は一致してゐるものであつて、統計上一應原則として書き記したものである、大衆が統一を欲してゐる事は事實であるが、共產黨の存在する限り不可能である」それに次いで大阪山口氏は

「日勞、無產兩黨には、何等の共產黨的の動きはない我が機關紙すら最右翼と言ふ日農黨が何等の危惧する處もなく合同協議を重ねてゐるを見ても、大衆の恐るゝ共產黨的のものでない事が解る。赤松氏の合同に對する說明は、大衆の聲ではない。幹部に危險な思想的傾向をもつものがあれば、進んで合同して大衆を善導すべきだ。以上の理由によつて合同協議會の參加を望む」これに對して、赤松氏は「コミンタンの指導通り行動しなくとも、レーニンズムを把握しつゝ行動するものも同一と觀る。新黨準備會と大衆黨が思想的傾向を異にするからと言つて、吾黨と合同出來る思想的基準とはならぬ」更に[illegible]鐵一氏が付け加へて

「トーマ氏歡迎の如き小事ですら、一緒に遣れぬ彼等と合同出來る理由がない。又共同鬪爭が直に合同への展開とも考へぬ。殊に元山氏の意見は無產者新聞の切抜きそのまゝの様である」と遣つてのけ、議論沸騰して盡きず、鈴木議長態度か討論打切りを議場にはかる。議事進行のため「關西派の希望をふくめての中央委員會一任」の緊急動議ありしが否決され、米窪氏は「海員組合、兵庫縣聯合會の意向を代表して」と前置きして

「五黨合同の中心勢力は日勞黨であり、日勞黨は社民黨から分離して結黨したものだから、元山氏案には絕對反對」と目をまるくして叫ぶ。大阪の總元締株らしく構へる山内鐵吉氏は總選擧當時より說き起して、

大會小景

社民黨大會で一代議員が「アルベール、トーマ氏をわが黨は歡迎してゐるが、同氏はかつて歐州戰爭の時、勞働者農民を砲彈の巷に追ひやつた人である。全國非戰同盟を支持してゐるところのわが黨が、このトーマ氏を歡迎するは矛盾ではないか」とやつつけると、赤松君「トーマ氏の過去はさておいて、現在において國際勞働局長として社會正義の爲め努力してゐる事は事實である、これが爲め、社民黨は歡迎するのだ」と答辯する。流石の赤松氏もトーマの戰爭問題には一寸答辯が出來なかつたらしい。

×

アルベール、トーマの歡迎會後、場外におらんとするや、鈴木文治氏の發聲で萬歲を三唱したが、この時、傍聽席の一隅から可成り上級の勞働者が議員と相和して萬歲をやつてゐるのは社民黨大會ならでは、又アルベール、トーマならねば、この珍光景は見られまい。

×

米窪滿亮が議長席から下りる時には、必ず握手をしてをりる。總同盟大會の時もそうだつたそうだが全く勞働者はやり切れない。

「選擧出來る候補も對立鬪爭のため落選したのであつて、支配階級に抗するにはどうしても合同しなくてはいかん。對立すれば他黨の缺點を誇張して暴露するのみで何時迄經つても合同は出來ず、溝が深くなつていけないこの際一切の感情を捨てゝ、合同協議會に參加すべきである」この時議場騷然たり、元山氏は「[illegible]氏の「新聞きりはり云々」に對して釋明を乞ひ、共產黨は國際的な連絡を持つてゐるものであつて、モスコーの承認しない共產黨はない。自分は本部の「反共產的」解釋には絕對に反對する」この時松岡氏より「採決要求」の緊急動議あり、議長はこの動議に基き各案の再說明を求める。

赤松氏「共產黨的は第三インターの直系のみでなく、客觀的に「共產黨的」とみなされるものも含むものであつて、共產主義者の政治的手段をも意味する」

元山氏「第三インターの指令によつて行動するもの以外は反共產黨的とする」これによつて愈々採決に入り、前夾の決議は滿場一致をもつて可決し、共產黨派の解釋による第三回大會の態度決定については、赤松案多數可決となり、具體的合同對策は中央委員會一任となつてさしも紛糾を重ねた合同問題も一段落を告げた。時既に五時半、この間二時間半に亘る論爭が續いてゐた。

この合同問題について筆者の感想も述べたいのであるが、既に豫定の紙面がなくなつたので、簡單に切りあげねばならぬが、

一、社民黨内の合同派の勢力はあなどるべからざるものであつた

二、組合同盟側が反對の理由として「無產大衆黨との合同は、關西社民派を取り逃かす恐れあり」と言へるに反し、合同派は無產大衆黨を含めての合同を熱望してゐること。

等であつた。靜かに雜然たりし大會の空氣を偲び、合同派の進出を祈りつゝ、大會見聞記の筆を止める。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

時評

國民政府に反噬する支那無産大衆

支那に於ける排日運動は年中行事の一として、本年度のプログラムの重要な部分を占める事を疑はない故に、新年早々この問題を論ずる者ではあるが一應去年の排日運動の概觀を一瞥し、その上新しき年の展望を試みる。昨年の排日運動は田中内閣打倒、日本帝國主義的資本主義打倒のビラ撒布に始まり、議會後田中内閣の拙劣な對滿政策の公表は滿洲に於ける官民合同の排日運動となり、張作霖の狂亂ぶりに頂點された滿洲千三百萬の大衆は彼の死によつて一息ついたが、現在では日本帝國主義的資本主義の滿洲へ向つての攻勢は張作霖や其他の支那官憲を經由せず大衆の上に落ちかゝつてきてゐる。更に張の沒落と前後して例の濟南事件が突發した。突發といふよりは豫期された事變、案外大きな波紋を畫がいたと云ふべきである。日本資本主義の支那新興勢力への恫喝として、又南京漢口事件以來の忍辱に對する鬱憤ばらしとして、正に田中反動内閣の獨擅場であつた。併し在留日本人は田中反動内閣の無鐵砲なる彈壓外交の犧牲となつて暴兵の慘殺する所となり、更に戰鬪力を有さぬ支那大衆に銃火を浴びせる結果を招來しこの無名の師は途に撤兵の時期と口實とを發見するに窮し徒らに日支兩國の無産大衆を窮迫に陷れ排日氣分を濃厚ならしめたに過ぎぬ事は去年中屢々あらゆる機會を通じて論じつくした所である。

かくて南北支那の國民政府による統一的機運は、支那革命をしてブルヂョア革命にまで墮落する要素を以て國民政府の主腦となすに至り、各地に澎湃として起つた排日、排貨運動にある程の手心を加へて之を抑壓せしむる傾向が表れ來り、田中反動内閣の強硬外交も此邊一寸弱もてのした形ではあるが、排日貨運動は大衆の示威運動として頗る根強いものであり且つ左傾せる國民黨分子——内に共産主義者を含む——を指導者とする國民黨部の指導によるもので、これが爲め昨年度の對支貿易は不激を極め、支那の中小商人連は此の反日運動に反對し反反日運動を起すといふ風聞すらある。日本は漸次撤兵しつゝ而相當の兵力を山東に駐屯せしめ、國民政府と支那大衆を威嚇し、支那ブルヂョアジーの要求である關税率引上や治外法權撤廢をあくまで遷延せしめ止むを得ざれば此等の條約改訂に際し各國よりも有利な條件を獲得せんとして、態度が出先官憲を招喚し矢田上海總領事の如きは、しやべるのが商賣の外交官でありながら「口禍」の憂目さへ喫せしめられた。この間、即ち八月初頭床次竹次郎は支那問題に關する民政黨の政策を聞き足らずとなし、これを新黨樹立の旗印として卅の頭數を集め得たが、更に一新黨の御連中はこの例にならひ、御大典の京都は、此等支那問題を手品の種として掻き集めた議員の買收機關となつた。床次は政府との野合の結果てれかくしの一策を案じ出した。即ち渡支これである。床次は日本政府當局者ではないが、田中内閣の援助者として自由な立場にある最有力者であり、國民政府中にも民政黨時代に關係を結んだ者も若干は存在するから此際彼床次の渡支により國民政府の田中内閣に對する反感を幾分なりとも解消せしめ得るならば、正に一擧兩得、一石二鳥である。けに悲しい哉床次は「天に口なし、人をして云はしむ」の支那の古諺を知らず、國民政府の要人と會談すれば日支外交の根本問題は解決し得ると信じてゐたのである。果然支那各新聞は床次の上海來着すら纔に數行を割いて報導したに過ぎぬ。しかも床次は政府の要人連と南京に於て美酒佳肴の裡に自己陶醉に耽つてゐた頃、反日大會は南京に開催され、床次要撃の計劃まで傳へられ彼の宿舎は憲兵數百を以て警備するに至つた。見よ、支那の無産大衆は、今にして眞實の革命への道がブルジョアジーとの結托に非ずして、大衆の暴力によるものなるを知つたのである。時代の眞實の流れに盲目な憫むべき議會主義者床次には支那無産大衆の切實なる要求が何なるかに全く無智である事は完全に暴露した。そして唯支那大衆の反日排日運動に油を注いたので、若し彼の役目が假に國民政府のダラ幹からニコポンを浴びせられ、また國民政府の連中を煽てあげる所謂「仲間同士の賞讃ごつこ」なら批判の限りではないがこれを契機として、反日の波瀾は更に高張し支那大衆の國民政府幹部に對する不信任は、外交部長王正廷驅逐等となつて表面化せんとしてゐる。

新しき年を迎へて、これ等支那大衆の運動が如何なる發展をなすべきかを先見するのは興味津々たるものがある。併し大衆の生長を度外視して機械的に考へる事は出

進め戰鬪歌

(一)黄金によろほへる
資本の牙城は高く
壓制に惱みつゝ
吾等の鐵鎖はきれず

折返し
いざ進め〱
農村に工場に
突撃の聲高く
鬪ひ今やせまる

(二)〇〇の鎖切れて
無明夢は醒く
黎明の鐘のもと
ブルヂョア挽歌ぞ響く
(前節繰返し)

(三)立上れ同胞よ
正義は今ぞ燃ゆる
〇〇の日は近く
未來は我等のものぞ
(同繰返し)

(四)振りかざせ赤旗を
よろこびの喚聲へ
民衆よ野に山に
凱歌を今ぞ擧ぐる
(同繰返し)

赤旗の譜

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

来ぬ故、一切は除断を許さぬ。たゞ次の如く言ふに止めたい。

現在右傾派によつて占められてゐる国民政府と、左傾分子の蟠居する国民党部との間に横たはる溝渠は幅と深さを増加し、各地に蜂起しては弾圧されつゝある共産党の労農政府樹立運動と相俟つて、右派凋落の日は遠からず到来するであらう。此時、支那軍閥と、支那ブルヂョアジーの共同戦線が如何にして構成され、日本ブルヂョアジーが此間に処して如何に活動するか。また刮目すべきである。

吾人の観る所では左傾分子の政権把握は今日の状態を以てしては永続は困難であるが、支那無産大衆の成長と日本無産大衆の支持とがこれ等の問題を解決するであらう。国民政府に反噬する支那無産大衆の生長こそ、吾人無産政党のとるべき対支政策を支配するであらう

帝都の不安

佐々木敏三

毎年年末にかけて、物騒な強盗記事や、放火記事が新聞に掲載されるのでありますが、今年もその例にもれず、「不安におびゆる帝都」など云ふ大みだしで、市民の不安をかりたてゝゐます、殊に説教強盗の噂はこゝに記さないでも余りに有名であります。彼は巧に警戒網をくゞつて、軽転自在に出没します。余りに警察の事情を知り抜いてゐるので、或ひは犯人は警察関係の者ぢやあるまいかとも噂されてゐます。講談や活動に見るねづみ小僧などに匹敵するでせうか。私達は、彼等のねづみ小僧は頗る義に厚く金持から盗んで来ては貧乏人に与へたといふ事を聞いてゐます、この説教強盗はどんな者であるか、事情はわかりませんが、単に盗人と云つても色々あります、即ち、飯が食へない為めに仕方なしにやつたものもあり妻が病気の為めにやつたものもあるでせう。おそらくこの年末不安の大部分を占めてゐる犯罪は、生活難よりくる犯罪であるといふ事を考へたなら、無産階級を飢餓線のドン底につき落す資本主義社会そのもゝ罪悪を呪はずにはゐられません。

われわれはこの資本主義の欠陥の下にあつて止むに止まれぬ生活の窮乏から犯す犯罪に対しては、甚大な同情を寄せざるわけには参りません。しかし、これと反対に、此の資本主義社会の欠陥を利用して、無産階級のふところを掠める盗る「どろぼう」こそ、ほんとうの我々の生活をおびやかす悪魔であると云ふべきでせう。その手段がたとへ合法的であつたとしても（合法それ自身が既にあやしい）事実上「どろぼう」式であつたなら、「どろぼう」と云ふより外はありません。現在の資本主義社会においては、無産階級から出た「どろぼう」は、激しく処罰されるのが常でありますが、後者は常にこの反対に、巧に法網をくゞり、否、現在の社会組織、権力が、これらの「どろぼう」の進出を擁護してくれてゐます。

現在盛んに問題になつてゐるところの東京市疑獄事件の醜議員こそ、真に、我々無産階級の生活をおびやかす「××××」であると云ふべきでせう。彼等は、自分等の地位を利用して、無産階級のふところをかすめ盗る「××××」の先棒や、下受をやつてゐるのです。東京市会定員八十名の中までにその半数が、獄につながれる状態である、しかし、問題はまたまた奥に秘められてゐるのです。

◎

私は東京市民諸氏が、此の東京市政の腐敗に冷淡で、説教強盗やその他の小どろぼうにのみがたがたふるへてゐるのを見てひそかな失望を禁じ得ないのです。

みなさん、私達は、説教強盗は何んでも調査の上手な警察に信頼して、私達のふところから捲りあげて、いゝ加減な事になくして了ふ立派なブルヂョア××××を縛りあげようではありませんか。古句に「どろぼうを捕へて見れば我が子なり」とありますが、縛りあげて見れば、案外にもそれはみなさんが投票して市会に送つた人であるかも知れません。

東京市会の解散は即時やれ

第五十六議会迫る

清水実一

最近川崎市に勃発した一票動事件は、赤裸々に政党の議員争奪が如何に醜悪な方法をもつて行はれてゐるかを示すものである。第五十五議会における醜議員、及び昭和大典当時の民政党議員の醜聞事件等々、そして来るべき第五十六議会も又こうした戦ひによつて終始するであらう。この第五十六議会においてわれわれの選出した無産党議員は如何に戦ふべきであらうか。前議会においては、民政、政友の勢力拮仲であつて、田中反動内閣打倒を唯一の目標とする無産党は一切の反政府勢力を糾合しなければならぬ理由から、民政党とも提携して政府に肉迫した。しかし、今議会においては、政府与党が絶対多数を占めてゐるので、如何に反政府勢力が糾合して戦つてもどうする事も出来ぬ。即ち、憲政一新会、床次一派は完全に金権の前に、又、対支強硬外交の支持の名の下に野合した。勿論、田中内閣打倒の必要は増大こそすれ決して減少してはゐない。されはあくまで無産党議員は田中内閣打倒に邁進しなければならぬが、今議会においては、無産党独自の立場から、民政党その他の野党の行動に注目せずひたすら前進するが妥当である。

前議会において民政党その他のブルヂョア党が口に田中反動内閣打倒を叫びながら、本質において徹底せざる態度を以つて進んだ、それといふのも彼等の田中内閣打倒がたゞ彼等一流の政権欲から出たものであつて、無産政党の如くに無産大衆の政治的自由の獲得と活権の確保といふ立場から行はれるものとは全然、区別されたものであつたからだ、されば、最早や民政政友の勢力相伯仲せざる今議会においては無産党議員はリープクネヒトたる覚悟をもつて彼等の正体を暴露し田中内閣打倒を実現せねばならぬ。

しかし乍ら、我々は各無産党の議員の行動を統一して戦ふ必要がある。現在において、各党はめいめいの立場からやるとの事であるが、それは無産党に対する悪印象を世人に与へるかも知れないから反対だ。（同）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◆兵士一家の生活を保證しろ
◆兵役年限を短縮せよ
◆帝國主義戰爭の危機と戰へ

血税納行者におくる

伊倉繁郎

一月十日、之は何の日だ。我等は武器の聲をきく、既にかすれたそれは何の聲だ。勇ましい喇叭が鳴り響く。日章旗が高く風にはためく。見送り人が黑山を築く。

一月十日。それは日本のブルジョア共が、氣味の惡い微笑を洩らす日だ。あの嚴粛な將軍が、訓示と、號令と、サーベルとを以て何ごとかを演説する日だ。

そこで我々はキヨトンとした目をして、譯もないのに引張り出される頭の丸い××を見なければならない。萬歳!(其の聲の底に何が潜んでゐるか)といふ叫び聲をきかねばならない。

一月十日。だが、其の後で我々は何も見なかつたか?新婚したばかりの夫を失つたわかい人妻の赤い目ぶたを見なかつたか!振り上げた鞭の下に嬰子をおくる母親の涙拭きを見なかつたか!底の見えた米箱をヨレヨレに細つた老人の肢を、乳不足で泣きつく赤児を消えかけた世帶を見なかつたとは云へまい。

一月十日、そしておい、頭の丸い兄弟!ヘイ、閣下、絶對に閣下の命令に、其のことの如何を問はず服します。誓ひますと、ヘンコを捺さねばならないのだ!何でだ何でだ!それは?誰の爲めになのだ!

×

さてそれから滿州の土色をした帝國主義者の可愛い人形さん達の目が動かない練習から始まるんだ。

「古兵殿、靴下を洗はせて下さい」

夜中にこつそり起き上つて赤い血の吹き出した手で氷を叩つて洗濯をして、週番士官から、オイ、コラッ……こんな美德を敎はるんだ。

×

質問「我々の一番恐るべきものは何であるか」

答「ヘイ、過激思想であります」

「よろしい!」

こんな敎育が始まるんだ

×

士官「コラッ!貴樣はづるい奴か姓は何處だ」

兵卒「ヘイ、××郡であります」

士官「小作爭議ばかりやつてる處だな」

ポカリ。これが訓練だ

×

散れ!構へ!止まれ!前面の敵三百　ク!各個に打て!

突貫に!前へ!

貴樣等は敵愾心がなくていかん。そんなことで敵が撃てるか!本當に彈丸が飛んでゐると思つて、そら九へた、今一回、

ただ兵士よ、我が丸頭の兄弟よ!

××××××ねらつてゐるのだ!

何をねらはせられてゐるのか!敵とは一體誰のことなのだ!過激思想か?小作爭議か?勞働者か?農民か?

×

平和條約!非戰條約、だがそれには戰爭もなくされはしないのだ。尨大な軍備は、しかも勞働者農民の血税を搾つた軍事費はどうして呉れる。家族の生活はどうしてくれるのだ。支那出兵はどうして呉れる。青年訓練所はどうして呉れる。學生軍事敎育はどうして呉れる。示威演習を何故やめぬ。帝國主義戰爭を煽動する奴は誰だ。帝國主義戰爭の危機は誰が釀いた、

そして、そして、おい兄弟!俺達に、××××××せさとなつてゐるのだ!××××××餌食を得よと煽動してゐるのだ!

××よ!××をすかして見よ!此の××××××を貫く爲めに引かれるのだ!

×

一月十日、我が若き勞働者農民諸君!あの××に守られた鐵門をくゞる時、諸君は誓はなければならない。此方は決して××しはしないと言ふことを。萬歳!の聲の底に潜んでゐる××らの××と、民衆の切なる心臓を聴かねばならない。

帝國主義の武裝に強制される時其の軍服の色に、帝國主義戰爭の導火線から今煙を吹いてゐる、滿洲を見つめねばならない。××××××××××××××××××××××重ねてしなされねばならない。反帝國主義・反帝國主義の白衣が着なければならない、其の白衣には「萬國のプロレタリヤよ團結せよ」と書かれてゐなければならない。

××が・××が、××が與へられる。

その×××××××××その××が誰の心臓を。その××で誰の××××さうさするのか。帝國主義者の號令で……を考へねばならない。腹の底から血と共に吐き出す掛け聲はプロレタリヤの歷史的使命を帶びてゐなければならないのだ!

×

一月十日、我等はかくて諸君と固き握手を交し、別れを告げやう。帝國主義者共が、戰爭で、萬國の無産者を、砲彈と毒瓦斯と劍の刑場に、虐使と飢餓との淵に追ひ立てる其の日を、××××××××××××××××××××戰爭の響ひな雷鳴を以つて亂して我が若き勞働者、農民諸君、此の我等の秋の鬪ひの聲を、滿洲の喇叭で目を閉じる時、徴兵の喇叭が劍の様に響く時、×××が野蠻な帝國主義の注射をする時、口吟して呉れ!其此へ×××××勞働者、農民の大衆が諸君と握手を求めて登場するであらう。

帝國主義戰爭の危險迫る。

戰爭に反對せよ!

第二インターナショナルのダラ幹を葬れ!

ソビエットロシヤを守れ!

萬國の無産青年よ團結せよ!

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

青年運動の戰線確立への闘爭

上杉定義

一

嵐の中を行く日本無産階級運動は、その闘爭力を強化せしめるため、統一論のカラ呼びより實行への具體化へと進んだ。私がこの稿を起す頃、日勞黨に對して、民憲無産、日農三黨より同時に合同の申込みあり、四黨合同もその實現に近づいて來た。我々はこれに對して全力を擧げてその實現のために努めると共に、この實現を阻止し、破壞せんとする分裂主義者の監視を絶對に怠つてはならぬ。

曩に全國農民組合の結成を見、今又四黨合同の機運は熟した。斯くして分裂に分裂を重ねて來た日本無産戰線も漸く資本の攻勢に備へる戰列が整へられんとする。たが我々はこれを視て樂觀してはならぬ。右翼結成論者は愈々その門戸を堅閉して、現實主々義の下に立籠めんとし、赤色戰士の夢尙醒やらぬ極左分裂主義者もありて、この階級的、大衆的要求を眞に實現せしめる迄には尙多くの努力を必要としてゐる。

二

青年獨自の立場より、自らの解放のために闘爭すべくその組織化を圖つた青年同盟準備會は、左右中間を通じて、熱心にその結成に務めてゐる。

青年同盟の組織結成によつて、強力なる運動が展開される事は、青年獨自の社會的、經濟的、政治的地位の確保される事は言ふまでもないが、それはかりではなく、全無産階級戰線に亘つて、沈滯せるその活動を活潑ならしめ、政黨・組合幹部中の機會主義者を克服する。

かく重大なる使命をもつ青年同盟は、その組織結成に當つては、細心の注意を拂つてその闘爭力の分散を防がねはならぬ。青年運動の強力なる展開のためには、單一青年同盟の結成によつて、闘爭力の分散を防止し、その單一青年同盟の結成への過程として、政黨中立の立場を採るべきである事は、先月號において、日本無産青年同盟の立場を表明した時に述べた。

政黨中立の立場を採る事は、本來より言へは斷じて許さるべき事ではない、たが從來の如く各政黨が分立してゐる時には、その統一の戰術として、此立場を採るは止むを得ぬ。これは日本無産階級運動が生んだ一つの大きな罪禍ではあるが、既に全國農民組合はこの立場を採つてゐるし、青年同盟も又この立場を採れるあり、又採る事を強要してゐる。我々は合同統一に全努力を傾注してこの我國階級運動が生んだ罪禍を消滅せしめなくてはならぬ。そのためには出來得る限り對立を避けるため、青年同盟の結成當初においても、そのための方法を講ずべきである。

三

政黨の基に結集する青年同盟は、必然に政黨の制肘を受け、そのために青年獨自の利害を代表して強力に闘ひ得ぬ事を幾度か說いた事であつた。十一月二十日總同盟本部における社會青年同盟第一回創立準備委員會においていかに右翼幹部諸君が、專制行爲をもつて、青年同盟に制肘を加へてゐるかを立證する事實を見せてゐる。その一例として、主催者小山群夫氏は開會の辭に、

「先に青年同盟の組織準備が委任された吾々が色々の仕事のために怠つてゐる内に、黨內の若い闘士諸君が我々の態度に憤慨して青年諸君自ら新に青年同盟を組織するに至つた。然しこの傾向を見るに左翼勢力を含み內部に二大潮流を生じ、黨幹部との關係面白からぬため、黨本部は此れに解散を命じて、今回新たに黨青年部より提唱したものである。」

と述べてゐる。尙同會内の政黨的色彩を摘發すれば、

一、社會青年同盟に解散を命じて、新たに社民黨青年部提唱による新青年同盟組織を企圖

二、社民黨青年同盟評議員は、黨青年部よりその半數を推薦するものとす。

三、綱領の一項に「吾等は社會民衆黨の指導精神に立脚し、無産青年の大衆的結成を期す」を挿入する。

以上の諸點の忍從を強られた社會青年同盟は、この社民黨幹部の振つた大ナタのために、青年獨自の闘爭の展開を阻止せられ、完全に骨抜きにされて終つた。

左翼勢力の浸入を防ぎ、現實主々義の扉の中に堅く閉ち込めんとする政黨幹部に反抗する先進分子は、この壓迫の下より勇敢なる內部闘爭を續けてゐる。政策の一項に治安維持法及び其他の無産階級壓迫諸法令の撤廢を加入せしめた。（見よ！この重大なる一項を削除せんとしてゐたのだ）尙帝國主義戰爭反對の一項は、可否同數のため、議長小山は原案を支持して、これが加入を拒否した。（青年と戰爭がいかに密接な關係を有するかわ今

更ぎふ必要はない。たのにこの一項を入れぬのだ。反動主義者はこれによつて戰爭讃美の本性を現わした。かくして政黨の寵兒として（無理にされたのだ）青年同盟の創立大會は、開かれんとする。我々はこの政黨統制の下に立つ社會青年同盟の先進青年分子と協力して、青年獨自の力を發揮せしめねばならぬ。

四

日勞黨の下に結集された全國勞農青年同盟準備會は、社會青年同盟に比して政黨幹部の壓迫は薄い。たが勞働組合側の幹部は、從來の青年部隊そのまゝの姿に止めるべく力を盡してゐる。その宣言草案の一節に、

「而して我等が無産青年獨自の立場より無産階級運動の一翼として、展開すべき闘爭の一切は、無産政黨が無産者階級全體の合法的尖端として、支配階級へ集中的に抗爭するものなる以上、かゝる全無産階級的政治闘爭へ發展合流せしめねばならぬ。斯る必要に基き我等は無産政黨の戰闘的統一を立黨の精神となしその光輝ある使命の實現のために、勇敢に戰ひ進んだ我國唯一の階級的無産政黨たる日本勞農黨を支持しその政治的指導の下に勇敢に戰ふ事を誓ふ。然しながら我等は無批判にその指導に追從するものではない。我等は飽く迄階級的立場を厳守し、日本勞農黨立黨の精神の遂行に飽迄努力する事を併せて誓ふものである。」

日勞黨が單一大衆黨の結成を立黨の精神としてゐる點に對しては、我々も絶對に支持してもよい。たが單に表面に現れたる事のみをもつて、これを支持し、政黨の下に結集する時は、その裏面を流れる幹部の暗流のために、往々にしてその進路を誤る「無批判にその指導に追從するものでない」この宣言の一句を極力擁護する事は全國勞農青年同盟の大きな任務である。

五

指導者の殆んど全部を支配階級に奪はれ、全組織は破壊されて、全國的聯絡機關を失つた新青年同盟準備會は少數意識分子の殘存者によつて、花火線香式のビラ撒き事によつて、氣勢を擧げるのみで、その活動は休止の形となつてゐる。十一月十八日各支部に對して達示した自己清算のための指令において明かに從來の戰術の誤謬を認め、その自己清算による結論として得たものは、「血みどろの闘爭がもたらした成果は比較的僅少であつた。」たゞその一致によつて盡きると言つてゐる。少數意識分子の觀念的運動は革命の幻影を追つて大衆より孤立したために、それに對しての批判は幾度も我々が繰返した「血みどろの闘爭がもたらした成果は餘りにも僅少であつた」ばかりではない。御大典前後に至つては、二十數名の指導者を牢獄に送り、三月事件以後、移動本部によつて漸くその餘命を繋いで來た新青年同盟準備會は殆ど本部を移動する力すら失われ、聲明書を發する事も（これは彼等の唯一の闘爭方法であり、その闘爭の全部であるかの如くであつた）不可能となつた。新青年同盟は、強大なる組織の未完成のため支配階級の攻勢に對抗する力なく、彼等の蠻行に任せて、獻身的勇を受けその機能さへ失われんとしてゐる。

理論的にも實踐においても行詰つた新青年同盟準備會の打開策は、近 組合青年部確立による勞農青年協議會の組織にと變更された。

この打開策を提唱したものは、日本勞働組合全國協議會準備會であつたが十一月二十七日の新青年同盟準備會のニュースはこれを承認し、青年部確立に邁進すべく指令を發してゐる。

この青年部確立の理論的根據こそは過去の實踐を通じて戰ひ取つたものであるらしい。先づ過去の誤謬を次の諸點において

一、新青年同盟は充分に青年勞働者を闘爭舞臺に動員し得ず、それ自身脆弱なる組織を持つ事が出來なかつた

一、新青年同盟の中心活動の分子の多くは青年勞働者ではあつたが、全體より見れば動員された青年勞働者は僅少であり、隨つて青年獨自の要求運動が活發に行はれなかつた。

一、新青年同盟はその組織上の矛盾のため、（即ち明確に勞農青年の政治的機關でもなく、經濟的機關でもなかつた）青年獨自の闘爭も青年の切實なる經濟的要求に結びつけられなかつた。

一、以上の諸欠點のために、意識のおくれた未組織青年の日常的初的要求の激發を闘爭に導き得なかつた。我々が常に批判し警告を與へた事が、漸く緩ひられれはしたがその迷夢より脱した新青同盟は迷夢より脱すると同時に、再び暗黒の扉を押し開いてその中に這入つて行つた。即ちこうした自己批判より得た結論は、そしてその結論より生れた實踐への規定は、次の如くである。

一、勞農青年の政治的同盟は××主義青年同盟以外になき事を明かにした。

一、この認識の基に、その同盟員を一般青年大衆より獲得すべく、組合青年部の確立。

一、成年勞働者が、青年問題に無關心であり、兩者の闘爭が分離してゐた所の誤りを改め、兩者の密接なる關係をつくる。

一、大衆の中に喰入るために、日常的初的な經濟的要求を闘爭に導くために組合内に青年部が設置するを得策とする。

一、斯くして確立した青年部による勞農青年協議會の全國的組織の確立大衆化をもつて、革命的運動の擴大を圖る。新青年同盟準備會は既にこの組織方針に從つて、青年部確立を各支部に指令し、そのための運動を開始してゐる。現在の新青年同盟準備會は、青年部への再組織へのみ必要とされ、××主義青年同盟のこの新しき青年部の確立、發展と勞農協議會の組織確立によつて解體消滅するものである。この新しき新青年同盟準備會の闘爭方針は

一、支配階級の彈壓によつて、全組織が破壊され、新青

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

年同盟の合法性獲得を絶望し放棄したものである。

一、政黨内に立籠る事は、如何なる理由を附すとも新組織への逃避である。

一、青年部は青年獨自の立場よりその自主化が圖らるゝ事も、實際問題として組合内にあつては不可能である。

一、未だ觀念論より脱し得ざる、小兒病患者は自己の錯覺を絶對に信じ、又從來の行掛り上、自己清算を完全に遂行し得ぬ。

新青年同盟の合法性の獲得に絶望し、これを放棄する事なく新青年同盟準備會が、その組織體の強化への方法として大衆的青年同盟結成のために、一時退却するならば、この方針を新青年同盟準備會が採る事は敢て不賛成ではない。然しそれが大衆的青年同盟の結成を放棄して××主義青年同盟を直に結成せんとするものなる時そしてそのための前衛部確立であるならば我々は絶對に反對する。それは失意したる者が自棄自棄に陥つて、過激なる行動に成すと何んの異なる所があるか？運動の發展過程に目を注ぎ、冷水を浴びて現在の社會の客觀的形勢を新青年同盟は今一度見直す必要がある　絶望より希望を闘ひ取れ！彼等の輝ける指導者大山郁夫氏の言葉をそのまゝ私は新青年同盟に呈しよふ。

六

新青年同盟は既に大衆的青年同盟の結成を諦め、組合青年部強化の企て、斗爭的運動より××主義青年同盟の結成に向つて行く。社會青年同盟も政黨幹部の壓迫の前に、その發展の阻止せられつゝあり、全國勞農青年同盟も又宣言草案において掲げたるが如き氣慨も漸く衰へ、合同問題に絡まる日勞黨の内紛の渦中にあつて、一月十三日の創立大會もその開催を危ぶまれる。

青年同盟の結成を企圖されてより、數ケ月の實踐は、政黨の下に結集する事が、いかに青年獨自の運動を阻害するものであるかを教へられた。それと同時に、日本無產青年同盟の立場の正しき事は、これによつて愈々その光りを増した。我が準備會はその成立より未だ月餘を經ざるに既に和歌山、島根、長野、愛知、高知方面に地方準備會の成立あり、東京にあつては、本郷、芝、四谷、城南方面にも準備會を持つて、着々と堅實なる歩みを運んでゐる。尚、議會に對しては、第五十六議會を前にして、青少年保護法の制定、十八才以上の青年男女に選擧權、被選擧權の獲得等のスローガンの下に共同闘爭を申込む等、猛烈なる運動を内外共に展開してゐる。そして我同盟は單に共同闘爭を提唱するのみでなく、現在ありのまゝの各準備會に合同を申込み、創立大會は四つの準備會の名によつて、開くべく努力しつゝある。理論に實踐に、眞に大衆の要求を取りあげ、階級的正道を示しつゝ、闘爭を續けて來た我同盟は、その闘爭によつて愈々その存在の意義を發揮し、大衆的單一青年同盟の結成に一路邁進するであらう。（十二月四日）

「附記」

懇親會即ち十二月十日午後七時、全國勞農青年同盟第四回擴大準備會が日勞黨本部に開かれ、出席者二十一名であつた。本部より結成準備中の「青年獨自の立場より」を「階級的立場より」と改めるとの提案があつた提案理由は「青年獨自的闘爭はあり得ない」として。又規約中の「二十五才以上」を「二十七才以下」にする二つの修正案があつたが、城北、江戸の二支部準備會は「本部の修正案は結局同盟の青年性を失わしめ、之に政黨、組合幹部（大人）の機械的支配を強るものである」として絶對反對したが、結局本部案が承認された。次に城北支部よりトーマ問題（緊急動議）があつたが「トーマと日勞黨との關係は諸種的觀點（?）が開くの差控て貰ひたい」と抑へ、「支部としてのみの問題は許せ」と言ふ案が抑壓された。斯くしてこの同盟も政黨組合幹部の補充となりダラ幹トーマと握手する事なしも強要され青年獨自の立場を實踐的に放棄しつゝある。

（十二月十四日）

「以外に長くなつたため省略すべき事も多くを殘されてゐるが、一時打切る事とする。所で社會青年同盟は解散され、五日同盟の創立大會あり、苦難の途を行く日本無產青年運動の前途、實に多事であり、寸時もその批判を怠る事は許されぬ。だが既に一月十日は軍閥の魔手に身をゆだねるの運命にある私は、一時筆を停める事を余儀なくされる。私は二ケ年の軍隊生活に入るに際して、凡てを同志に托して、青年同盟の發展を祈りつゝ、筆を擱く事とする」

ミリタリズムと抗爭せよ
この事實を何と見る。
大砲の下敷

◇私は某砲兵聯隊に入營し、選まれて千葉四ツ街道の砲兵學校に入學したが、不幸、大砲の下敷となり、それが原因で、肋膜炎となり、衛戍病院に入院した。それから三ケ月後には、思ひもよらぬ現役免除として、歸郷せねばならぬ運命となつた。

◇が私の郷里までは二百里もある。で、私は汽車の中で、一度まで同乗者の御世話になり、よろめくやうにして、わが家にたどりついたのであつた。その後、病勢は益々重り、人手を借らねば何事も出來ぬ身の上となりそれ以來三ケ年、今は家の畜へもなくなつてしまつた。

◇だから、私が一日長く生き延びれば、それだけ私の家が困るのである。ところが、なは、一年二回の教育召集と、簡閲點呼の呼び出状が來るのだから、軍隊は殘酷だ。

◇それでも、都度、御丁度にそむいてはと、醫師の診斷書を差出すことにはしてゐる。幸にして老母は、私を看病して下されるし、一人の妹と一人の弟とが懸命に働いて、細々ながら一家の生計を維持してくれる。

◇然し、そのために今年廿三歳の妹は、見す〱婚期を取りにがしさうだし、弟は來年が徴兵檢査と來てゐる頑健な弟は多分、檢査に合格するであらう、尤もこれは何とかお願ひして、徴集の猶豫なり免除なりをし、頂かうとは思つてゐるが。

◇それにしても、入營中病を得て、結局私と同じやうな不運に見舞はれてゐる人々が、少くあるまいと思ふ。私一個の問題はさも角、若しこうした事態が、一再ならず起るとすれば、これは當局においても、充分に考慮しなければならぬと思ふ（不運兵）東日より

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

全土戰報

小作争議暴動模擬演習へ抗議

宮城縣下において去る十一月二日行はれた、農民組合を假想敵とする擬演習は、今や全國の農民勞働者の憤起するところとなつた。わが全國農民組合はこゝに、全國の小作農民の名によつて宮城縣知事に左の抗議書を送つた。この問題はたゞ宮城縣下においてのみ起つた出來事として默過すべきではない。これは全國的に支配階級の反動政策の一表現である。田中反動内閣を倒せ。

抗議書

本年九月行はれた陸軍大演習に際して貴下は其の部下に命じ大演習警備を名として縣下各無產政黨に對して甚だしき彈壓を加へ殊に我が全國農民組合宮城縣聯合會に對しては暴力的迫害を加へ、事務所の出入の嚴禁は無論、組合幹部數名は或は不法檢束、或は縣外追放を命じ目に餘る彈壓政策を公然とせられた。然るに今やまた去る十二月二日未明「小作人を中心に縣下農民組合員約四百名殺倒、事態頗る險惡なり」との假想の下に、石卷署長三浦栄及びその部下四十名餘の官憲は三臺のとらつくに分乘して挑生郡前谷北村、全國農民組合支部を襲撃し組合員高橋讓、菅原嘉之榮の兩個人宅に來つて不法なる家宅搜策を行ひ、兩人を半裸體にして凌辱を加へ言語同斷なる暴擧を敢行した。

また十一月四日未明登米署長は志津川、飯ノ川、佐沼各署の警官五十名余を引卒し、自働車六臺、自轉車十五臺に分乘し登米郡豐里村赤津の我が組合支部を襲ひ、組合員宅を家宅搜索し佐藤菊治外數名を強權的に檢束をした。

之等は單に石卷登米署の發意によるのではなく其の指揮命令は明かに貴下の發したるものと斷定するものである。

かゝる暴逆なる彈壓は常識が判斷するまでもなく、自治體の長として至公至平であるべき貴下が地主の利益を計るために吾々小作農民全體に對し公然の宣戰布告を發せられたるものといふべきである

既に吾々はしばしば現在の政治權力を握る者は常に資本家地主の利益を計るを最大目的とし最大多數の民衆の生活を不安に導くが如き專政的政治をなしつゝある事を指摘し嚴重なる抗議を續けてきたものであるが此度の小作爭議暴動鎭壓模擬演習は斯の如き專制政治の正體を如實に曝露したものである。

窮乏のどん底に喘ぎ逼迫せる苦痛に泣く小作農民の眞實の生活に恬として顧みざるのみならず、あまつさへ小作農民が據つてもつて自主的に向上を計らんとする唯一の道程たる組合運動に對して意識的に暴力的彈壓を加へ永久に吾々小作人をして地主の隷屬化におかしめんとする貴下の此度の行動は斷じて許さるべきでない。此度こゝに嚴重なる抗議をなすと共に貴下の即時辭職並びに關係警察署長の即時罷免を要求するものである。

右抗議す

昭和二年十一月三十日

大阪市北區堂島濱通三丁目一八

全國農民組合總本部

中央常任委員會

宮城縣知事

牛塚虎太郎殿

頻發する差別事件に抗議せよ

全國三百萬の兄弟達よ、吾々兄弟は常に差別され、鬼人も嘔く様な壓制や迫害を蒙り奴隷にされてゐるのだ。

慘虐に苦しむ兄弟達よ、吾々は何故に斯く迄差別扱ひにされ虐待されるのだ。吾等は決然と起つて斯くの如く蹈み躙られた正義を奪ひ返さなくてはならないぞ。去る十一月十六日溫泉郡北吉村西岡部落の兄弟諸君が、御大典奉祝の假裝行列を行ひ小野村中井町を通過する時同村某々等は行列を指して、エタの行列等と侮辱的言辭を弄したのだ。其の上西岡部落の青年が交渉に行けばエタをエタと言つたのだ、そうしてそれが惡いかと「中村[illegible]刑務所々長」の如きは暴言を發したので、西岡部落の諸君は大いに憤慨して、應援を拜志村水平社本部に求めた。拜志村水平社では來援の求めを聽くや直に、荏原水平社に其の旨を報じ、拜志荏原上村水平社共同のもとに彼等差別者を徹底的に糾彈する事にした。處が此處に、中井町の隣智と云ふ融和團體員片岡榮松は、此の報を聞くや西岡部落に行き「水平社に通知すると金もいるし、損だから此の儘で解決して呉れ」と申し出でたが返つて西岡支部の人達は大いに憤慨して一喝を喰はして彼を退却せしめた。かくて小野村大野部落公會堂に於いて十二月一日午後七時より十二時迄の長時間に亘つて三水平社共同の嚴重なる糾彈にさしも強情な差別者も頭を下げ、左記謝罪狀を提出せしめ解決した。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

進め

謝罪狀

昭和三年十一月十六日溫泉郡小野村平井町に於て御大典行列に對し侮辱的言辭を弄したるは誠に申譯無之茲に誠實より御詫申上ると共に今後斯かる不心得なき事を御誓ひ申上候依而後日の爲連署を以て謝罪狀如件

昭和三年十二月一日

溫泉郡小野村大字大野
市井友藏
高川繁則
武智久之

西岡部落御中
愛媛縣水平社全國水平社御中

近く西岡には此の事件を動機として水平社が設立される筈、全國三百萬の兄弟達よ團結せよ。

北大の男爵と放校

札幌は北海道の頭腦だ。道廳と大學とがあるからだが、さて聊かこの頭腦は資本主義末期的痙攣性痳痺症に陥つてゐる。道廳では高い月給を拂つた役人を東京に遊ばして行政科國家試驗受驗準備をさせておく。てな手品は朝飯前だ。大學は大學で、綜合大學になり醫科まで出來たが、さて愈々形を具ふるに從つて資本主義制度下に於ける學校敎化機關としての役割を充分に果すべき任務義務の遂行にいそがねばならず、さりとて資本主義自身の內在的矛盾に對して眼を閉ぢるにはあまりに純眞な學生を去勢するには骨が折れる。面倒だから力で抑壓しようと試みる。佐藤某なる北大總長は十幾年間、校內に於て無能と瀆職の譏りうけながら巧妙に上司のおひげの塵を拂ひ、遂に今秋男爵にまで叙せられた。無能と瀆職との碌盜人が上にあつて華族となつた頃、學生の文武會——校友會——の組織改變が行はれ、完全に自治權を奪はれ學校當局の專斷專制の下に學生の一切の發言は封じ去られた。社會科學研究會が各高等學校で彈壓され、警察權によつて蹂躙されてゐる今日ではあるが、未だ學生の持つ校友會學生の學藝運動の統制機關——の自治權まで完全に奪取した所はない。また文部省のカチ〳〵頭にも御遠慮な所があると見える。

しかるに北大は卒先してこの勇敢果敢な闘爭（?）へと進出してきた。いやはやお勇ましい限りではあるが農政科の猛烈な反對反感はやがて全校學生の輿論となり最も日和見主義のドクトル、オブ、メヂチーネ候補者たる醫科の連中まで學校反對となり、學生の大會を阻止せんとした愚劣な學校當局者は毆打され講堂は破壞され、運動は遂に暴動化した、數名は放校だ。

何處までこの運動は進展するか、全國敎育界の模範とされ男爵にまでなつた佐藤某は、何の顏あつてか父老に見えんやだ。男爵と放校。皮肉な對照を全土の諸君は何と判じられるだらう。敢て駄文を草して投稿する所以である。（北大一學生）

無産青年の大同團結へ

ブルジョアジーの金城鐵壁と云ふ知多郡にも潮の如きプロレタリアートの切實な經濟的政治的要求が捲起り始めた。

全郡廿八箇町村の各地に勞働者、農民の不平不滿が激成されてゐる。

東洋紡績知多工場の埃と雜音の渦卷く中にも、東浦の水田の中に鋤鍬を持つ百姓の口から、遠く豐濱沖に魚を漁る漁師の間から

俺達の生活を保證しろ
勞働組合加入の自由をよこせ
深夜業を撤廢しろ
小作料を三割負けろ
漁業組合信用組合の官僚的支配絕對反對だ
臨時休業の日も給料を支給せよ
女工を縛る苛酷な規則を即時廢止しろ

是等の日常經濟的要求が相呼應して叫ばれてゐるのだ。

併し吾々は現在の知多郡の狀勢を持つてしては是等の大衆的要求を、闘爭に組織し得ない事を悲しまねばならぬ。何故なら吾が知多郡には唯一ツの經濟的、政治的、團體すらも存在してゐないからだ

勿論內海には六〇〇の農民組合あり、半田には民衆黨の支部があると云ふ、が之等の團體結社は全く反動化し、農民をブルジョアや官憲の手に渡し、或は市民大衆を公然と反動支配の下に置いてゐるではないか。故に吾々は眞の俺達の爲めに日常闘爭機關が無いと云ふのだ。そこで吾々は階級的勞働組合農民組合の結成に萬難を排して邁進しなければならぬで其の勞働者、農民結成の推進力として先づ活潑な無産青年が其の任務の遂行出來得る要素であることを確信し此處に日本無産青年同盟支部準備會を確立したのである。

全知多郡の勞働青年農村青年諸君勞働者と農民の强固な大衆的組織を持つ爲には、活潑な青年の活動なくして其の成就を期待することは出來得ないのだ、

ブルジョアの絕對專制支配の下に於かれてある廣汎な知多のプロレタリアートを組織することは搾取と忍從のドン底に喘へぐ無産階級を解放へ一歩ふみ出さしめるべき、プロレタリア青年の當面の任務だ、

五千の從業員を持つ東紡知多工場に組織無きは何故だつたか？

全郡幾千の小作人を組織し得なかつたのは何に原因したか？

それは小ブル的イデオロギーの所有者等によつて、吾々農民、勞働者部落民大衆の要求がこと〳〵く蹂躙し、吾々の眞の運動が確立し得なかつた點に原因するものだ、故に吾々

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

進め

は過去に於ける彼等の誤つた無産階級運動を勞働者農民の前に曝露し其の組織を眞の階級的闘爭に組織しなければならない、

無産青年今後の活動方針は眞先に如上の點に闘爭目標を定め、全郡の未組織青年大衆を獲得し或は官僚青年處女會を乘取らねばならぬ。無際限な彼等の搾取と、專制支配にあるプロレタリア青年を今後とも吾々が永久に放棄してゐたならば、兇暴限りなきブルジョアジーは益々其の強制的、專制權力に因つて、全知多郡のプロレタリアートを虐殺し、單に言論、出版結社の自由を絶對に剝奪するのみならず、總ての無産階級の自由を束縛し、現在の此の好機會を永遠の彼方に押しやつてしまふだらう、

そうだ、俺達は如何なるブルジョアジーの暴壓的彈壓も、官憲の組織的、計畫的妨害をも踏み散らして強固な無産青年同盟結成に一路邁進しなければならないのだ。吾々が今揭げた日本無産青年同盟支部準備會の旗の下に全知多郡の勞働青年農村青年諸君は、其の各の工場から農村から、職場から双手をあけて、吾々の旗の下に馳せ參ずべきだ、

吾々工場勞働者が農村青年と固く手を握つた時、漁業青年が小作農青年と協力した時、知多郡の無産階級運動はブルジョアジーの恐怖の前に統一するのだ、

全知多郡の勞働青年農村青年、部落民諸君！

未來を持つ吾々無産青年の躍進すべき時は來たのだ。

工場、農村、職場の青年大衆の大同團結の前に、ブルジョアジーの一切の專制權力を突破し、吾々が最後の目標たる勞働者と農民の政府樹立に向つて突進しようではないか、

日本無産青年同盟知多支部準備會は諸君の一日も早くブルジョアの搾取と迫害の下から、青年訓練所に於ける軍國主義支配の下から各々の職場から、吾々の旗の下に投ぜられんことを願つてゐるものである。

日本無産青年同盟
（愛知縣知多郡支部準備會）

第一線青年聯盟のその後の鬪爭

且つて進めの誌上において、我が青年聯盟の成立を告げておいた。その當時は、全國的の組織をもつた青年同盟のなかつたために、過渡的存在の成立を必要として、鄕土の無産青年の糾合に努め、漸く官僚青年團の內部に入りて、その分解作用を起させるために努め追々効を奏して最近に至つてはその尖端はこの官僚青年團の乘取りに力を盡してゐる。工場、事務所、農民層の青年を我等の手に獲得する事も必要だが、餘りに地味な運動ではあつても、各地各村の各青年團、青年訓練所の乘取りによつて、青年同盟の組織網、闘爭組を結成しなくてはならぬと思つてゐる。その點において、我が青年聯盟は、重大なる役割を現に果しつゝあり、又果して行くであらうと思ふ。既に最近に至つて全國的青年同盟の組織が企てられつゝあるが、我青年聯盟は、この全國的闘爭の參加も決議してゐる。全戰線の統一のために最も忠實に努力する青年同盟に對しては、絶對の支持を惜むものではない。全戰統一に一路邁進せよ。

（島根支局）

島根支部、黨機關を亂用す

島根縣の日勞黨支部の指令に次ぎの如き文句があつた。

「雑誌勞農代、日勞新聞代を拂へ」

と日勞新聞は指令として出してもよいが、勞農の廣告迄する必要もあるまい。勿論階級運動に盡してゐる勞農である故に、勞農を擧む事は妨げないが、黨の指令として出す事は考へものだと思ふ。勞農に無産大衆黨の準機關紙ではないか。又準機關紙であるから指令として出してはいかぬと言ふのでもないが、我黨にも、進め、大衆時代、社會思想の如き、我黨の準機關紙もあるのだから、それの宣傳をした後において、勞農の廣告をしても遲くはあるまい。日勞黨も、合同問題については、內部に種々なる暗流がある故その行動も細心の注意を拂つて貰ひたい。いかに合同に熱心であつても、僅かな事で感情のソゴを來して、返つて合同を停滞させる事はいくらもある事だから。

（島根支局）

軍國主義への戰ひ

常に生活をおびやかされてゐる俺達工場勞働者に、その生活を根底より動かす入營の期日は迫つて來た。資本家地主共の利益の擁護のため、行詰りの打開のために、我々青年プロレタリアーを肉彈として、幾千萬の犧牲者を出しても、テンとし、省みず、自己の利慾のみに盡す彼等のために、尊い人生の內二ケ年間は國家のためと云ふ美名の下に御奉公た。なんでも國家のためと言つて欺された俺達もしつかりしなくてはならない。國家のため、國家のためと言ふ名の下に、全世界のプロレタリアは、自らの味方を××て、我等の×を助けてゐるのだ。それ丈でも我慢が出來ぬのに、入營すれば我々の工場では解職されるのだから遣り切れぬ。二年の奉公を終つた忠良の國民も、軍隊から出れば、職を離れて、又さまよわねばならぬ。××

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

の國民もそこ迄行けば、世話はない何の事はない、ブルヂョアのために此の世の中に生れて來たようなものだ。こんな生活をするなら死んだ方がどれ丈け幸福か知れぬ。死を欲せざるものは、立つてこの××と戰へ。軍國主義には絶對反對だ！入營期間を一年にせよ！入營中の家族の生活を保證せよ！除隊者を即時復職せしめよ！軍隊内の人格を認めよ！

（芝浦進め讀者の會T生）

青年同盟準備會生る

長い間、進め支局を遣つてゐた俺の處で、日本無産青年同盟が組織するための機が來た。俺達はどれ丈けこの機の來る事を待ち望んでゐた事か。進めの讀者は既に百二十人許りもあつたが、それは單に讀者に過ぎず、鬪爭として戰ふ事の出來ぬ俺達は、組織のない事を悲しんで、讀者の會によつて、僅に地主に對抗してゐた處、今度かゝる計劃の企てられた事を聞いて、うれしくてならない。今は五十三名しか組織内に入つてはゐないが、やがては凡ての障害を破つて、日本無産青年同盟の中に入つて行く事であらう。讀者の會より青年同盟へ、中央の諸君の奮鬪を望む。

（大分縣支局）

潔く鬪爭の中へ

小學校の教員として働いてゐた俺は、御大典の前に、マルクス主義講座を取つてゐると言ふ事で、そんな奴が兒童を教育すれば、國家のために危險とあつて、免職の榮に浴した。ブルヂョアの下にゐるがため、思ふ事も言へず、純眞な子供の頭に、ブルヂョア擁護の教化をする事に苦しめられてゐた私も、眞裸に成つて、大衆の中へ！それから鬪爭へと進出する事が出來るのだ。明い未來のために、同志よ、しかりと手を握らう。

（山形、前敎員）

縣政を大衆の手に

東京市の疑獄事件は醜陋を内外に曝露したが我が神奈川縣も亦同樣に横濱市會の如きは外人居留地の永代借地買戻しに絡まり横濱高級助役は獄窓にぶち込まれ、遂に起訴された。

こんな収賄助役を推して自己の手足としてゐた有吉市長の責任問題は當然起つて來たが、政友、民政兩派の苟合妥協によつて所謂復興市長としてヘバリ附いてゐる彼は、無理が通れば道理が引込む位に考へ、厚顔にも司法權に對して不信の意を表明し、自己に何等の責任なきものとして市會に臨まんとしてゐる。

また川崎市會を見よ。御大禮奉祝賀詞を可決するに當り副議長である社民黨の陶山篤太郎氏が、補足的希望として市會が社會問題の解決に考慮を拂へと頗る平凡な事を微溫な言葉で演說したのを口實に議長副議長の追出し策と惡用し、遂に横車を押し通した。元來川崎市會は政民兩派の議員數が相伯仲し、社民黨議員四名と中立議員に完全に牛耳られ正副議長の椅子を奪取されたるを切齒し昨日までは犬猿の間柄の兩派が妥協し策謀した卑劣極まる陰謀だ。社會問題解決に對して些少の考慮を拂ふべき事を提議したのが何の不敬だ。

小田原でも川崎市會と同樣な事をしてゐる。これは民政の議長を追出さうとしてゐるのである。一體、議長の椅子の奪ひ合ばかりして何等大衆の實際的要求を顧慮しない、地主や高利貸や女郎やの亭主共の寄合だ。十一月廿日開催の縣會もこれを擴大したに過ぎない。

昭和三年春の選擧で、政民の勢力が伯仲し、無産黨が完全に決定權を掌握し、議長は民政の飯田氏、副議長は横濱ドック工作會から推された酒井氏、といふ事になつたが、其後政友會は、腕の喜三郎事前内相鈴木の直系の子分を内務警察兩部長として頭數獲得に努め政友十九名、民政十四名、無産四、中立三、となり政友の自由、別言すれば横暴がきく樣になつたから堪まらぬ。大切な豫算審議などそつちのけで、正副議長更迭を計畫した。

この間の泥仕合を詳叙したら際限がないから筆を省略するが、俺達は日勞社民の議員連によつて僞瞞にみちた縣豫算の幾分でも改變される事を希望してゐたのに此のざまだ。十一月廿八日の縣會は、議長不信任案問題で政友派議員は全部缺席し、それ以來、毎日々々流會また流會、これでは遂に豫算案議決不可能となり、例の知事の專制による原案執行といふ自治體として最も不面目な結果を招來するだらう。

更に無産派に加へられた縣警察部の暴壓はお話にならぬものがある、無産派議員控室に無産黨員が出入するのまで強い御法度で、無産黨議員がゐるからとて議場を警官で埋めたり十一月廿八日、流會後、日勞黨の金井議員外三名が議場で政友會攻擊をやつたのに對して、其日の深夜に至り所轄加賀町署で無屆集會だと稱し三氏を引致取調べた。しかるに當時議場内には多數の警官も居り、殊に縣警察部は議場に臨監したのに中止も命ぜず金井氏の如きは特に中止を命ずるまではやると云つて演說したのに一言半句も云はないで、揚句の果ては此始末だ。十二月十三日には、この流會縣會の調停役を買つて出た内務部長と正副議長追出しの黒幕たる警察部長との暗鬪は遂に警察部長の聲明書發表となり、縣廳内の内紛は遺憾なく曝露された、縣民こそいゝ面の皮だ。縣會を民衆の手に

（横濱支局）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

結合の前の分離

―勞働者の觀たる知識階級問題

辻井民之助

一、日本の無產階級運動と知識階級

由來日本の無產階級運動には特に多數の知識階級が參加してゐる。然も彼等の多くは各無產團體の中に重要なる地位を占めて、常に無產階級運動の上に、善惡ともに甚大なる影響を與へてゐるのである。

有力なる勞働組合及び農民組合の最高幹部の地位は、殆ど大學知識階級によつて占められてゐるやうだ。總同盟の鈴木文治、赤松克麿、組合同盟の棚橋小虎、上條愛一等の諸氏は揃ひも揃つて大學出であり、右翼大組合たる海員組合、海軍聯盟の最高幹部に至つては、殆ど總てが知識階級の如くである。農民組合では、全國農民組合の杉山元次郎、淺沼稻次郎、稻村隆一、吉田賢一、全日本農民組合同盟の平野力三等の諸氏また然りである。無產政黨方面にあつては更に甚だしい。勞農黨の大山郁夫、日勞黨の麻生久、社民黨の安部磯雄、大衆黨の鈴木茂三郎の各黨首格の諸氏を始め、領袖株も各黨ともに大半知識階級であり、また八名の無產議員中、勞働者出は西尾末廣氏一人あるのみだ。

舊勞農黨や舊評議會の指導部に巢喰ひ、福本主義の極左的宗派分裂主義理論をふりかざして戰線を散々分裂に導きたる、所謂「革命的インテリゲンチヤ」、一名、書生ッポマルキスト」一派の諸氏は、殆んど全部が學生、或は學生上りであつた。また彼等極左連より、「無產階級の陣營より沒落して、急激にファシズムに轉落しつゝある」と攻撃されたる、社民黨、日農黨等の、右翼日和見主義幹部も將また、左右の分裂主義に反對して、所謂中間派政黨を結成したる日勞黨の幹部諸氏も、更に又宗派分裂主義右翼分裂主義の克服戰線統一の爲に敢然として戰ひつゝある雜誌「勞農」一派の諸氏も、何れも均しく知識階級である。知識階級は、かくの如くに日本の無產階級運動の上に、善惡共に、常に甚大なる役割を果しつゝあるのだ。

無產階級運動とは、無產階級―嚴密には勞働階級―が、組織と團結の力によつて、資本家階級に向つて鬪爭し、彼等の飽くなき搾取と壓迫とに對して自己の生活を擁護し向上を圖ると共に、更に進んで、現在の賃銀奴隷の境遇より、自らを解放せんがための運動である。從つて無產階級運動は、どこまでも無產階級それ自體の自主的運動でなくてはならぬ。たゞ無產階級が強大なる資本家階級の勢力と戰つて、これに完全に打ち勝たんがためには、戰略上、一切の反資本主義的勢力を動員し、これと共同戰線を張り、これを味方に惹付けることが絕對に必要である。そこに勞働階級を指導勢力とする、一切の被壓迫民衆の共同戰線黨たる、大衆的無產政黨の必要があるのだ。故に我等勞働者は、無產階級運動に知識階級の參加を拒むべき何等の理由もない。たゞ私は、今日の日本の無產階級運動が、餘りにも無產階級それ自體の運動らしくなく、餘りに多く知識階級から惡影響・受け過ぎてゐると考へるのである私はこの點に就て、切に戰鬪的勞働者諸君に訴へたいのだ。日本の無產階級運動を、知識階級の惡影響より救ひ眞に無產階級それ自體の運動に發展せしめんがためには特に充分に知識階級の問題を解決してかゝらなければならぬと私は考へるのである。即ち、我等勞働者は先づ、今一度ハッキリ知識階級の本質を見究めることが必要である。その上でこそ、始めて我等は彼等に臨むべき正しき態度を決定することが出來るのであるから。

二、なぜ知識階級は無產階級運動に參加するか？

階級制度、搾取制度の上に立つ所の一切の社會は、それが一たび沒落期に入込むや、支配階級は、全民衆に對しては固よりであるが、更に自己の階級に屬する、可なり大なる下層に對してさえも、滿足に給養を與ふることが出來なくなるのだ。日本封建制度の沒落期たる德川幕末時代に於ても、幕府を始め全國の諸大名は何れも甚だしき財政的破綻に陷り、これが彌縫のために、愈々甚だしく百姓町人に誅求を加へた事は云ふ迄もないが、それと同時に、恰も今日の社會で大資本が小資本を收奪する如く、當時の支配階級内部に於ても、幕府は諸侯に云ひがゝりをつけてはその領土を沒收し、諸侯も又負けず劣らずこれにならつて、家臣の祿を奪ひ、追放したその結果、武士階級の間からは扶持離れの浪人者、武士の失業者が續出したのだ。また首の繫がつてゐる武士と雖も、文化の發達によつて、生活は向上し、物價は騰貴するにも拘らず、それに伴つて祿高は上らぬばかりか、規定の祿さへも殆んど滿足には支給されない有樣であつた。其結果、多くの浪人や下層武士の生活の不安と窮乏とは、實に百姓町人にも劣らぬ程に甚だしくなつたのである。所謂「勤王の志士」なる者が、彼等の中から現はれて日本のブルヂョア革命たる明治維新の火蓋を切り、その先頭隊となつて戰つたのは決して偶然ではなかつたのだ。

今日の知識階級の境遇は、この幕末に於ける下層武士や浪人等の境遇に最もよく似てゐるのである。日本の資本主義が未だ登り坂にあつた時代には、近代的大產業の盛んなる勃興と、これに伴ふ所の政治機關、軍備、教育

機關等の擴張擴大によつて、官吏、軍人、會社員、技術家、教育家等──知識階級の需要は實に無限であつた。そこで一方、資本主義の發展によつて、急激に沒落の運命を辿りつゝあつた舊中産階級──手工業者、小企業家、小商人、小地主等は、その活路を知識階級に見出したのである。即ち沒落して行く舊中産階級の中より、所謂新中産階級たる知識階級は發生したのであつた。舊中産階級の子弟は、知識階級の養成所たる大學、専門學校等へ盛んに入學した。そして彼等は卒業前から引張り凧の有樣ではけて行つたのである。學生の行手には、實に洋々として希望に輝ける前途が展かれてゐた。立身榮達は順次的、即ち階段的漸進と云ふ趣きが確かにあつたのである。そこで當時の學生の腦には、無産階級、貧乏人階級の問題などは夢にも浮ばなかつた。彼等は身にボロ服を纏ひ蠻手を振り乍らも天下の形勢に議論の花を咲かせ、未來のナポレオン、カネギーを夢見てゐられたのである。

たゞ既に時代は一變してしまつた。今や日本の資本主義も、その最後の段階たる帝國主義の時代にまで登り詰めてゐるのである。一切の重要なる産業は少數の金融大財閥の手に獨占され、自由競爭は廢絶されて、經濟界は彼等の統制の下に、彼等の意のまゝに支配されつゝある。かくて經濟界は以前の如き急性的恐慌に襲はれることはなくなつたが、その代りに、常に慢性的不景氣に沈淪し勞働者の賃銀は餓死點を彷徨し、失業者は街頭に滿ち溢れつゝある。たゞ極度の生活苦に惱みつゝあるものは單に勞働者ばかりでないのだ。曾ては新中産階級として資本家階級の下層を形成し、資本家階級に代つて無産階級を支配し搾取することによつて、その分前に預かり、勞働階級とは遙に優越せる生活を維持することの出來た知識階級も、今や急激にその小資本的地位より沒落しつゝあるのだ。金融資本による産業の獨占化、整理、合理化の結果は、一方では、彼等の大多數を失業せしめ、他方では中小資本家、地主等の沒落によつて、益々多くの知識階級が再生産される。彼等の甚だしき過剩は必然的に彼等の地位を劣惡化するに至るのである。かくて彼等の生活の不安と窮乏とは、曾ては彼等が熊公、八公と蔑視して來た勞働階級のそれにも劣らぬ位深刻化しつゝあるのだ。やがて知識階級として、そうした仲間の一人とならなければならぬ運命にある今日の學生等は、最早昔の學生の如く、到底未來のナポレオン、カネギーを夢見てゐる譯には行かないのである。

かくて彼等知識階級の間から──特に、精神的にも比較的純眞にして、經濟的にも自由であり、元氣に滿てる青年學生の間から、現在の資本主義制度に反抗し無産階級運動に身を投ずる者が續出するに至つたのである。それは恰も幕末當時、氣骨ある浪人や下層武士が、所謂「勤王の志士」として日本のブルヂョア革命たる明治維新の先頭に立ち、もはや自分達の生活を前途に保障し得なくなつた所の、自己の主人に向つて反逆したと同樣に。

三、『右翼ダラ幹』と、所謂『革命的インテリゲンチヤ』

明治維新は、既に行詰りの極にあつた武士階級の天下を倒して、資本家階級の天下を生み出さんがためのブルヂョア革命であつたが、勤王の志士はこの意義を少しも意識してゐなかつた。彼等は「尊王攘夷」を旗印しとして、徳川幕府を倒して王政を復古し、夷狄を討ち拂つてその功名によつて自己の立身を圖り、情々浪人や下層武士のために都合のよいやうな、當時の制度を改善することを目的として、明治維新を遂行したのであつた。武士の天下を倒して、素町人の天下を生みたすと云ふやうなことは、彼等には思ひも寄らぬ所であつた。然も彼等は事實の上では、この思ひもよらぬ結果を實現するために戰つたのであつた。然るに今日無産階級運動に參加してゐる知識階級の中には、自己の參加してゐる運動の歷史的役割を認識してゐないやうな者は一人もない。彼等は勞働者に比して、遙に多くの教育を受けて居り、極く深き知識を有してゐる。故に彼等は無産階級運動の意義や目的に關しては、理論的には勞働者よりも遙に詳しく知ることが出來、また知つてゐるのである。この點に於ては、今日の知識階級と勤王の志士との間には、確かに決定的な相違がある。

たゞ、知つてゐると云ふことゝ、實行すると云ふ事とは別である。譬へば我々は、酒や煙草の身體に有害なる事をよく知つてゐる。そして是を止めたいと考へてもゐるが、それは容易に實行されない事である。それは飲酒や喫煙が既に習慣性となり本能化し切つてゐるが爲である。知識階級は本來（　）的な階級ではない。彼等は資本家階級の下層を形成する所の所謂プチブルヂョアに屬してゐるのだ。彼等の中には、既に本能化したる所の、強きプチブル意識が泌み切つてゐる。其は、無産階級運動の戰士に取つては缺くべからざるプロレタリア意識の獲得を、頑強に妨げるのである。彼等の多くは、確かに無産階級運動の一兵卒としてどこ迄も眞劍に戰はんとの、純眞なる氣持ちを以て運動に這入つて來るのであらう。が、單なる決心や、暫くの運動の經驗位で克服されるには、彼等のプチブル意識は餘りに頑強過ぎるのである。

彼等のプチブル意識に特有の、強烈なる名譽心、功名心、立身榮達の慾求等は、この慾望の達成を阻まれたる今日、今日のブルヂョア社會に、彼等が既に見切りをつけて、一大憤慨の下に無産階級運動に參加するに至つた後に於ても、依然として無意識の中にその鋒鋩を現すのであるそして今日のブルヂョア社會に於て達成することを阻まれたる、名譽心、功名心、立身榮達の慾求を、無産階級運動の中に於て滿足せしめんとするのだ。彼等の生活は如何に窮乏しつゝありとは云へ、勞働者の生活に較ぶればなほ遙に餘裕があり、然も彼等は如才がなく外交的で

あり、器用でもある。更に彼等の學位やブル社會に於ける地位は、無知な大衆を惹きつける上に有利な條件となる。そこで彼等が無産團體の指導的地位を占めることは比較的容易である。これは彼等知識階級の間より一方では右翼のダラ幹が、他方では極左小兒病患者が、最も多く發出する所以である。

自己の醜惡なる利己的慾望を滿足せしめんがためには、勞働者の幾多の尊き犧牲の上に築き上げられたる無産階級運動を踏臺として顧みず、支配階級に味方を賣り付けて豪奢なブルヂョア的生活を平氣で營みつゝある恥知らずの右翼ダラ幹共――最近日本へ渡つて來た國際的裏切り者たるアルベールトーマや、彼の裏切り的成功をあやかり、その歡迎に有頂天になつて騷ぎ廻つてゐる日本の小トーマ共。彼等と雖も始めから裏切りを目的として無産階級運動に滑り込んで來たのでもないであらう。彼等も恐らく始めは眞劍に無産階級運動に乘り出して來たのであらうが、その頑強なるプチブル意識を克服し得ずして次第に墮落し、終には意識的に裏切り行爲を行ふまでに腐り切つてしまつたのであらう。

右幹ダラ幹共と競爭して、日本の無産階級運動を分裂と混亂との極に陷らしめたる、極左、宗派的分裂主義者たる、「書生ッポマルキスト」の諸氏も亦、明らかに彼等のプチブル的本質のために、理論的、實踐的に、重大なる失敗を犯すに至つたのである。彼等の多くは青年學生であつた。プチブル青年特有の強烈なる功名心、英雄主義的傾向は、彼等を驅つて、近く〇〇〇〇〇〇〇〇の陣頭に立ちて、無産階級を指導する所の華々しき光景を空想せしめ、いみじくも日本のレーニン、スターリンたらんことを夢想せしめたのであらう。親の脛を嚙り乍らの半年か一年の所謂「理論鬪爭」によつて、彼等は一かどの革命家となり終せたつもりであつた。彼等はその特有の支配慾と焦燥性とによつて、遮二無二、奮鬪の指導權を機械的に握つた。そして彼等は、その強烈なる同志に對する競爭心、嫉妬心によつて、盛んに獨りよがりの對立鬪爭を行ひ自己に盲從せざる同志は悉く排斥して、戰線を分裂から分裂へと導いたのである。また彼等のプチブル的名譽心と宗派根性とは、彼等の理論と實踐とが、既に完膚なきまでに、批判されたる今日に於ても、なほその誤謬を大膽に清算するといふ、階級的態度に出づることを妨げつゝあるのだ。かくて彼等は右翼ダラ幹の如く、意識的に裏切り的行爲はしないにしても、無産階級運動を擾する點に於ては、これと何等の變りもないのである。

四、知識階級に臨むべき戰鬪的勞働者の態度

知識階級は本來〇〇〇階級ではない。彼等はその屬する階級的地位のために、無産階級運動とは絶對に相容れない所の強烈なるプチブル意識を有してゐる。彼等がそのプチブル意識を克服して、プロレタリア意識を獲得することは容易でない。併し彼等は無産階級理論を摑むことは勞働者よりも遙かに早い。たが我等は單なる理論によつて彼等を買被つてはならぬ。盲目も、雪は白く、炭は黒いといふだけは知つてゐる。が、盲目の知つてゐるのは、白い、或は黒いと呼ばれてゐる色そのものではない。たゞ色の觀念に付けられてゐる符號である所の單なる言葉だけを知つてゐるに過ぎないのだ。實踐によつて裏付けられてゐない所の、机上の無産階級理論には三文の價値もない。それは盲目の色彩に關する言葉も同じた。

知識階級がそのプチブル意識を徹底的に克服して、眞にプロレタリアの戰鬪的意識を獲得せんがためには、無産階級運動の一兵卒となつて戰鬪的勞働者の中に入り、その薫陶を受け、勞働者と共に不斷の果敢なる鬪爭を續けることによつて自らを訓練するより外はないのだ。プロレタリアの戰鬪的意識なるものは、親の脛を嚙り乍らの半年や一年の所謂「理論鬪爭」によつて戰ひ取れるやうな生優しいものではないのだ。彼等に對して、果して前衛として充分に信が置けるかどうかを判斷せんがためには、先づ第一にその人が、過去に於て、どれだけの間如何に忠實に階級的行動を續けて來たかと云ふことを調べて見ることである。世界各國の前衛黨が、勞働者に對しては、黨員候補者として一年間の試驗をした上で、黨員中に二名の紹介者があれば入黨を許可するのに、知識階級に對しては、何れもその二倍、卽ち二ケ年の試驗の結果と、黨員中に四人の紹介者がなければ入黨を許可しないのはそのためである。

併し我等勞働者は、知識階級を、無産階級運動より排斥すべき何等の理由もない。マルクスもレーニンも知識階級であつた。現に立派な指導者にして、知識階級出の人は幾らでもある。彼等の中に指導者として充分なる資格を有する人があれば、我等は悦んでその指導を受くべきである。また我等が支配階級の強大なる勢力を完全に打破らんがためには、一切の反資本主義的勢力を動員し味方に惹き付けなければならぬ。そのためには、未だ充分にプチブル意識の抜け切らない、從つてハッキリしたプロレタリア意識を持たない知識階級と雖も、それが眞面目に無産階級運動に參加せんとする限り、そこまで相提携して進むべきである。たがその場合、我等が彼等の本質と發展の程度とを充分に認識してかゝらず、また勞働者の勢力が微弱であるならば、彼等に對してプロレタリアの薫陶を與へるのではなく、逆に彼等からプチブル的惡影響を受けて、却て無産階級運動の發展を妨げる。

現在日本の無産階級運動が、知識階級の惡影響を多分に受け、殊に右翼並びに極左の分裂主義者のために戰線を分裂混亂せしめられ、その發展を甚だしく阻害されつゝあるのに、我々勞働者が、彼等知識階級の本質に對する正確なる認識を缺き、その結果、彼等に對し、正しき態度を以て臨むことが出來ず、正しき關係を結んでゐないがためである。今や我々勞働者は、日本の無産階級運動を知識階級の惡影響より救ひ、その眞の發展を圖らんがために、彼等の本質に對する正確なる認識を基礎とする所の正しき結合、正しき提携を結ぶべく、これ迄の彼等との誤れる關係から、きれいさつぱりと分離しなければならない。（三・一二・七）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

搾取行刑政策と自由勞働者の失業關係（六）

加藤利藏

刑余者の社會的經路

四

自由勞働者を雇用する雇主、或はブローカー連にあつては——即ち中間搾取者——雇用に應じて來る自由勞働者の個々が、その過去の身世にどんな經歷を持つてゐやうとゐまいとその問題はどうだつていゝ。問はないとしてゐる。強健な能力の持主で、安い勞銀に不平もいはずにどん〱働いて呉れる者でありさへすればどんな者だつていゝ。使ゝしてやる——といつてゐる。けれど、前文中にも繰返して述べておいた如く、「前科」の烙印を額上に捺されてゐるこれら自由勞働者の群は、その在刑中、(行刑)當路者が事ある毎によく口にする「彼等に勤勉の良習を養はしむると共に——釋放後激烈なる競爭場裡に生活し得る勞働能力を涵養せしむるため」云々といふ——語を換へると「受刑者が釋放後の將來を職業的に有利に展開さしてやるために」であるといふ作業訓練の下に、一年を通じて每日平均十二時間卅分宛もセッセと働かされ、さうした過度の勞作によつて當然失ふべきカロリーの消費を補給するに充分な營養物の給與もされずに一年でも二年でも搾られ通しに搾られてきたこれら刑余の自由勞働者にあつては、「強健なる體力」ところか普通人並 體力さへまづ持ち合せて居ないといふのがその殆んどであるとして見れば、此處でもまづ就職上の痛ましい困難に當面せねばならないものであることは何人にも容易に領かれることである。

（全國において現在受刑者に給與しつゝある一人一日に對する食糧費は—植民地を除く—三食を合算し十四、二厘に計上されてゐる。つまり一食分が四錢七厘三毛といふことになつてゐるわけである。

況んや他の勞働市場に比してより深刻なる失業風が吹きまくつてゐて、普通人以上に強健なる體質の者でさへ間斷なき勞力の提供口を維持することの頗る至難なる此の市場においては、右にも述べた通り、その受刑中「作業訓練」と稱する彼搾取政策に直接の原因をおく「過勞」と「營養不良」とのためにヒヨロ〱の體軀とされて來た刑余の自由勞働者にあつては、その求職當初より不安不可能又は復職困難等の惱み——最も深刻なる慘ましい生活不安の惱みの中に狂ひ廻らねばならないものであることは瞭然たる實證として現實に展開されてゐる。重ねていへば、若し眞に行刑當路者が屢々世に宣明してゐる如く、受刑者への一日十二時間卅分宛もの強制執行による所謂「作業訓練」なるものが、釋放後の刑余者として「累犯に陷入る素因を除くために」或は「激烈なる競爭場裡に生活し得る勞働能力を涵養せしむるために」講じたるものであると考へてゐるものであるとしたならば——まづ現任行刑官吏の殆んどは恐らく内面的にはそんな風には考へてはゐまい——所謂受形者への作業訓練と稱する搾取政策は彼等が釋放後の將來に職業上從つて生活上への「安定」の機緣を與へるためのそれではなく、寧ろ反對に彼等をして深刻にして最も悲慘なる生活不安の泥沼に突き陷す原因を釀すであらう錯誤手段であると斷ずるのが正當である。（此の點に關することは後段において詳述する）兎に角これら刑余者を包含する自由勞働者の大部分の境遇上に起る失業若くは就職不能といふ現象は、その直後から食ふことが出來ない——即ち生の進路を阻まれるといふ重大問題であることは言ふ迄もない。生の進路を阻まれるといふことの結果は「死」であることは論理的順序である。つまりこれらの人々の境遇上に起る失業或は就職不能といふことは端的にいへばこれらの人々が死の道へと落ち込んでゆくことである。

——死——かうした結果を豫想しながら飢餓や病苦の中に晏如として居られるものであるとしたら或る意味においては幸福であるかも知れない、がそんなことは生の惱みも解せず、死の恐怖も感ぜざる意識の喪失者か痴呆者でない限りまづ不可能である。

許多の本能的衝動や反對作用が通常生活の一切に亘つて隱微なる機能の交觸となり積極的には自己保存の本能となつて意識無意識の間に斷えまなき機能を營んでゐるものであることは人の生理現象の常則である。

兎に角、現段階において被搾取被支配階級に僅かに與へられたる合法的といふ「生くる方法の勞働力の提供口まで見失つた」これらの人々は、果してそんな焦眉に迫るこの絕望的生活不安の焦燥からいかなる手段をもつて逃出せんとするか。語を換へれば切迫詰つた生の存續をいかなる方法の下に擁護せんとするか。

どんな人間でも——前陳の例外者でない限り——生の危機に瀕した場合には、「生きんとする本能的衝動はより強く全官能の激動を喚るもの」であることは生理的必然である。

感動の昂奮の極點は、人をして盲目たらしむることも心理的必然である。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

かうした切迫詰つた生への要求に因を發する生理的、心理的の熱狂的必然の動作は人をして所謂犯罪的生活へと追ひ込み易いものである。

ウヰリアム・ゼームスは、人の心は、何か強烈なる外部的刺戟にでも接するとき、又はある一つの目的に對し、熾烈なる欲能の炎を燃え立たしめて、感情が最高潮に達したときは「無意識の間に性格の變換が行はれるものである」――と改心の定義として述べてゐる。

善人が惡人に生れ更はる場合も惡人が善人の領域へと住み替へする場合も、心理的傾向は同一である。其處には社會的考慮も、道德的反省も何もない。生きやうとする欲能の強烈なる動き只一つあるのみである。

五

一二年ほど前、Tといふ岡本成蹊の飜譯者の譯したユーゴーのレ・ミゼラブルの譯本の序文の中に譯者の言として、小說の主人公、ジャン・バルジャンの全生涯を彩る、牢獄の慘苦と社會的迫害との受難の門出への動機となつた、ジャン・バルジャンが植木職といふ自分の腕一本で養ひ來たつた一家數人が彼れの失職のために飢餓に瀕してゐるのを救はんとしてパン屋の店頭より一片のパンを盜み出さんとした行爲に對し、「そんなことはせずとも外になんとかなつたであらう」云々といふ意味の批評を加へてゐるのを見て筆者は思はず失笑を禁じ得なかつたものである。

無論、パン屋の店頭で直に捕へられたジャン・バルジャンの行爲は、一家數人の飢餓を救はんとした所期の目的を達したものではなかつた故、それはかりではなく己れ自身もまた十八年間といふ長い禁獄の憂けを受けねばならなかつたといふ悲慘なる結果の原因を造つただけであつた故、結果から見れば「そんな拙い方法をとらずに、今少し巧妙に安全な手段をとればよかつたらうに」とは誰しもが思ふところである。

岡本氏のその譯本の序文の中に述べた言もかういふ意味からの批評であつたのであるとしたら筆者も同感である。が恐らくさういふ意味での批評ではなかつたやうに思ふ。

つまりかうした境遇に在る人々の身にどうかすると極く稀に惠まれることのある、不可知な運命の奇蹟的な救ひの手でもまつて見て、さうした僥倖に遭遇することが出來なかつた場合には論理的順序として飢死にか、野倒れ死にでしたらよからう――といふ意味での批評であつたやうに思ふ。

敢て岡本氏ばかりに限らず、「窮しても盜泉の水を飮むべからず」など云ひながら、大泥棒の庇護の下に比較的安易な生活の保證をうけてゐる道學先生達や、世の多くの大泥棒達の走狗の殆んどや、それら大泥棒達の案外樂な生活を羨むことによつて出來る境遇にある者等の殆んどは、皆がこういふ考へや批評をしたがるものである。

兎に角、レ・ミゼラブルを通じジャン・バルジャンの犯行の原因を探索すると、一家數人と共に辛うじて口を糊して來た植木職といふ職を失つた――即ち失業がジャン・バルジャンをして犯罪に走らしめたものであることが分明してくる。つまり、失業――生活難――犯罪といふことになつてゐる。

何もユーゴーといふ一作家の作品の中からこんな例を引合に出す迄でもなく現在日本における犯罪現象とその社會的原因とを探索して見るがよい、毎日隨所に數へ切れないほどの事件が續出してゐるであらうから。

盜みや騙りの罪名の下に法廷に引かれてゆく日々數百の被告の陳述を聽くがよい、「どうにもかうにもせうがなく、前後の考へもなく」云々と涙の告白をしてゐるであらうから。尤も數ある犯罪者の中には、兎もすると生活難に藉口する巧猾な奴も列ね、係り法官の同情心に訴へて科刑の減輕を僥倖せんとする狡猾漢などもあるにはあるが極く少數のさうした部類に屬する犯罪者も現代社會機構の所產である犯罪現象の寄生的異例として、それらには峻嚴なる法の適用こそ至當であるべき筈であるが、さうした狡巧の狡猾なる犯罪者は兎角法の網の目から逃され易い傾向であり、眞の意味における生活難に因を發する犯罪者の大部分は峻嚴なる司直の名の下に容赦なく處刑されてゐる。

更に一歩視點を深めて見ると、支配權力の暗默なる庇護の下に行はれる犯罪、或は、それらの權力の巧妙なる利用の下に行はれるものゝ如きの大部分は暗から暗への抹殺的手心を加へられて、世の明るみに曝け出されるやうなことは極めて少い。

最近全國的に一大センセイションを捲き起してゐる東京市疑獄事件の如きも、司法當路者は「司法權の峻嚴なる發動」などゝいふスローガンの下に、彼れ等醜市議の徹底的掃蕩を期してゐるなど、揚言してゐるやうであるがそれも畢竟龍頭蛇尾に終らなければ幸である。よしんばさうしたこれら僅かばかりの疑獄共を眞に處刑投獄したところで、資本主義、强權主義社會機構の暗黑面を剔抉した古人セネカの所謂「大罪は論せられず小罪は刑せらる」といふ支配搾取階級が自己階級の醜惡なる罪業を隱蔽せんために中途的に、被支配階級の前に曝け出したる假面的、政略的の機械的表現の目新しい珍奇現象として僅かに吾人に失笑を催さしむるだけに止まる。

六

「働かない者は食べてはいけない」といふ古人の言は、不勞所得の經濟生活を否定せる語である。

需給關係の經濟法則が科學的に究證され得る現在においては、勞働に堪え得ざる病理的缺陷者か老幼者でない限り、いかなる理由の下に行ふとも勞せずして生活することは、最も峻嚴に彈壓を要する社會的罪惡である。

失業に原因をおかうと、生活難に動因を發せるものであらうと、需給の供働的交換代價を無視せる經濟生活は、それは明かに「罪一

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

であらねばならない。

けれど、合法的なる生活代償である勞働力の提供口を求めんとして求め得ざるに原因を發する犯罪者に對しては刑罰を以て臨むことは失當である。これらの者に對してはまづその犯罪の原因である經濟的救濟機關の社會的施設を先決とするのが順序である。

「冬期浮浪犯人の續出する貧しい農村に、需要を滿たすに足るだけの燃料を、國家が無料で配給したならば、恐らくその浮浪犯人の數は、著しく減小するであらう」とフエルリも云つてゐるごとく、無料宿泊所の出現や簡易宿泊所の開設により、浮浪者の群が著しく減少したる如く、生活難に原因を發するこれら犯罪者の數も必ずや減少するであらう。

或は、生活難に藉口して犯罪生活を營む不逞漢の存在も必ずその跡を斷つに至るであらう。がかうした救貧的防犯設備の徹底的實現を資本主義社會に對して要望することは恐らく至難であらう。

言ふ迄もなく、現在における激甚なる失業者續出の社會的現象は、その原因が現段階における社會、經濟組織の諸機能より直接間接に排泄される必然所産の病理的現象である限り、生活苦に原因をおく幾多の犯罪現象の徹底的掃蕩を必要とするならば、ケトレーやロンブロゾー等も云つてゐる如く、「社會制度の徹底的改變を先要とせねばならない」からである。

年次遞增的増加の率を示す、竊盜、強盜、詐僞、横領、恐喝、賭博等生活難に直接間接の原因をおく、年々數十萬の我國における犯罪者検擧の統計數は一體何を物語るものであるか。

それは明かに現在の社會組織の矛盾と、經濟機構の病理的缺陷とを曝露する外の何物でもない。（未完）

當世闘士氣質

永田繁澄

×

近頃の所謂「俺こそ眞の闘士だ」「無産階級の前衛分子だ」等と吹歩く自稱闘士に碌な奴は居ない。斯う云ふ奴に限つて敢然に而も大膽に無産階級陣營を裏切つて居る。若し嘘と云ふ奴は遠慮は要らん勇敢に出て來い。恐らくそんな奴は藥にしやうたつて一人もありやしまい。

×

所謂自稱闘士なる奴は能くも出鱈目が並べ吾々を裏切つて居た事よ。此れが癪に障つて腹が立つなら一つ例を引いて奴等に好く分る樣に云つて聞かせるから耳を掃除してよく聞け。

×

最も近い例として、今獄窓に呻吟して居る所謂日本共産黨なるものを引かう。但し此んな事は今日迄隨分と澤山あつた。思想團體にしろ、或は組合にしろ、決して共産黨事件ばかりぢやない。

先づ自稱闘士なる奴は二言目に勞働者が何だ、軍隊が何だ、只吾々は絞首臺あるのみと吹歩く、何と言葉だけは雄々しく、勇敢なるものであらうか。即ち是がいけない。此んな奴に限つて、今日迄一番多く裏切行爲をなした奴共である。

×

例の共産黨事件——ばかりぢやない。組合、研究團體でも——先づ最初に、所謂法に觸れ一人だけ檢擧される。處が何うだ、一人だけで濟むならば譯もないが、芋蔓的に段々大勢の兄弟が引つ張られ監獄にブチ込まれる。

此の芋蔓と云ふのが問題だ、如何に獄犬共が商賣とは云へ、吾々のなした事をピンからキリ迄そう知つて居る譯は絶對にない。處が事件は知つてゐるのか片ツ端から引張られる。

×

何と不思議ぢやないか、驚くだらう。即ち問題は此處だ、奴等が娑婆に居た時の如く、勞働者が何だ、軍隊が何だ、只吾々は絞首臺あるのみと云ふ元氣、強固なる意志を持つて居たならば斯く多數の兄弟は監獄にブチ込まれずに濟んだ筈である。

所謂自稱闘士なる奴共が餘りにも意思が薄弱であつた爲め斯くも多くブチ込まれたのである。

獄犬共が無理に一人でも引ッ張つたら或は脅かし、或はすかし、時には踏む、蹴る、毆る、打つ等凡ゆる方法で連累者乃至共犯者を自白さす。此の時だ、娑婆に居て吹歩いた元氣乃至意志があつたならば、古い文句ぢやないが、

×

假令此の身は八ツ裂きに、されても云はれぬ此の秘密。で飽く迄押し通すが當然だ。然るに何だ奴等は二三週間叩かれ一二週蹴られると、有ることないこと詳しく自白する、だから一人引ッ張られると事實芋蔓的に行くわく共産黨事件なんか大阪だけで九十何名、日本全國を通算するならば恐らく何百人だらう。

タッタ一人の自稱闘士のお蔭で何百人の兄弟が要らぬ監獄で暮らさねばならぬ。

斯くの如く自稱闘士なる奴は害こそあれ益には一つもならぬ、然るに此んな奴共が闘士だナンテ威張つて居たんだから甚だ迷惑する。吹へ歩いた言葉と實際は斯く甚しく相違がある。

×

今後若し諸君達が假令引張られても決して餘計な口は云ふなよ。それに依る被害の莫大なる事を慮へ。

娑婆に居て堂々と勇敢に云つた事は飽く迄も實行するこそ眞の闘士である。踏まれる、蹴られるで、ペロペロ喋べる奴共こそ實に容易ならざる裏切行爲者共である

×

今後吾々の勢力がヨリ以上に大きくなり、ブル共の壓迫、いよいよ深く濃くなる時、所謂卑劣なるものは更に加重するであらう。

斯る時、諸君等は更に自覺し、害は小さく、益は大きくのスローガンを持つて吾々の勢力を一層強大ならしむ可きである。

共産黨事件の公判に當つて考へさせられた事を述べ、是非諸君等の参考に供し度いと思つて書いたのである。（三、十二、二夜）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

特別讀物

社會主義運動思出話（其六）

第四齣　赤旗事件

岡野辰之介

一、山口宮城に獄を出づ

明治四十一年六月十九日山口義三が宮城監獄を出でゝ東京に歸つて來た。何んで彼が宮城監獄などへ行つたかといふに、彼は「光」（週刊平民と日刊平民との間に在つた西川光二郎と彼と發行した社會主義機關紙、是れに就いては何れ悉しく書く）に書いた「貧富の戰爭」と、日刊平民に書いた「父母を蹴れ」とが秩序紊亂に引つかゝり一年餘大學に遊んだ譯である。大學に遊んだといふのは、監獄に行くと勉強が出來るので、當時同志の間では入獄を大學に行くといつた。土方仲間では本部屋といふし、泥棒仲間では洋行といふさうだ。

彼は入獄するにしても、何も宮城まで行かなくてもよからう、東京近在の大學が滿員で、東北大學へ廻されたのぢやあるまいと、諸君は思ふかも知れない。處が大違ひ彼は其の後に起つた「電車燒打事件」（一名兇徒聚集事件）にも引つかゝつてゐた。そして多くの同窓が保釋で出て居たのに、彼だけはユニホームを着て居たのである、そして電車事件は大審院で「原判を破棄し宮城控訴院に移す」といふことに成つた。

そこで多くの同志が遊山半分に仙臺へ出かけて行つたのに、彼は深編笠にユニホームの尻を七三に端し折り、藁草鞋といふ姿で巣鴨から宮城へ護衞附きで送られたのであつた。

二、上野驛頭の出迎ひ

彼は其の前日卽ち十八日早朝監獄を出たので、電車燒打ちの相被告牛田一郎が同志を代表して仙臺に迎ひに行き、十九日午前十時相攜へて上野に着いた。

サア、十九日の朝の上野驛頭に於ける同志の出迎へは大變なものであつた。

當時分派問題といふのがあつて、日刊平民で一所に仕事をした人々も、或は社會新聞派、或は大阪平民派といふ具合に分れた。後社會新聞は東京社會新聞と社會新聞とに分れ、大阪平民新聞は後に金曜會となつたのであるが、此の分派のことも何れ悉しく書く機會があらう。然し山口は入獄中であつたから、何れの派にも屬して居なかつた。そこで各派が打ち揃つて出迎へたのであるから、上野驛頭の混雜は實に名狀すべからざるものがあつた。

金曜會の連中は、赤旗を二旒押し立てゝ進んで行く。其の赤旗にはエナメルか何んかで無政府共產と書いてあつた、旗手は佐藤悟と森岡永治であつた。

此の時、出迎ひ警備の任に當つたのが下谷署の菅原警部で、初め赤旗の撤去を迫つたが、同志は之れに應じなかつた。同警部が之れをヒツたくると、同志の面々は再び奪ひ返した。それからは菅原も何ともしなかつた。そして同志は二旒の赤旗を押し立てゝ廣小路から切り通しへ出て、堂々と山口の下宿に乘り込んだのである。

三、錦輝館の歡迎會

踰へて二十二日山口孤劍出獄歡迎會が開かれた。發企人は石川三四郞、齋藤兼次郞、幸內久太郞、野澤重吉の四人、始め上野公園三宜亭でやることに成つたが、下谷署の干涉でダメに成り次いで同公園東花亭にキマつたが、之れもイケなかつた。何でも下谷署では十九日に赤旗を押し立てゝ、社會主義者に市中を橫行させたので、菅原君は散々警視廳から御目玉を喰つたといふことであるから、其の腹癒せに到る處邪魔したといふ取沙汰であつた。勿論、其の筋でも無政府黨が赤旗を押し立てゝ市中を練り歩くとは思つて居なかつたらしい。それで何んとも命令がしてなかつたのであるが、今日は斷じて許さぬといふ方針なのであつた。夫れを知らなかつた無政府主義者も愚な話、イヤ淺薄短見笑ふに堪へないのである。イヤもつと可笑しいのは今日も赤旗を押し立てゝ市中を練り歩こうとは、無政府黨に屬する若い連中の企てゞ、同じ金曜會でも堺も山川も之れを知らなかつたのである。

四、片山潜除名の決議

三宜亭東花亭を斷られた發企人は、百方奔走して漸く神田の錦輝館に會場を求めた。錦輝館は今はないが、工科學校の邊であつたと思ふ。演說會に適する大廣間も、小さい室もあつた。山口の歡迎會は二階の餘り廣くない室であつた。午後一時からといふ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

こゝであつたが、一時半頃閉會し、發企人が開會の辭を述べ、二三の歡迎の辭、山口孤劍の謝辭等があつた。

初め發企人は各派の間を周旋して會場で衝突などしないやうに打ち合せ濟みであつた。所が誰だつたか、今はロシアで東洋宣傳部長として、世界的運動者として時めく片山潜を除名するの決議案を、突如として提出したものがある。そして夫れが皮肉にも大多數で可決されたのだから可笑しい。彼は其の後、社會新聞を廢刊し、東洋經濟の編輯などして居たが、日本は君が志を成す處にあらずと覺つて、何度目かの外遊に上つた。妻と別れ、子を殘し、既に五十の坂を越して、孤影悄然旅途に上つた當時を憶ふと、一掬同情の涙なきを得ない。彼の留守中一人の男の子は死んだ。女の子は彼が生んだ靈として、樂壇を賑はせたが、今はドウなつたか分らぬ。

片山は日本に勞働運動を輸入した元祖とも云ふべき人で、又社會主義と銘を打つた雜誌を出したのも、彼を以て嚆矢とする。此の功勞者を除名するなんかチト亂暴だつたと思ふ。彼今ロシアに在りて、當時の同志に餘り好感を懷かぬのも、元はといへば此方が惡いんだ。

五、式場内で赤旗を振る

午後五時、會は終つた。會場には赤旗が二旒飾つてあつたが、散會少し前から之を會場内で打ち振り乍ら「ア　革命は近づけり、ア、革命は近づけり」といふ革命歌を高唱し出した。此の革命歌は「富の鎖」が餘りナマヌルイとあつて、大阪平民新聞で社會主義の歌を募つた時に、之に應じたものである。作者は上州の人で築比地仲助、彼は頗る軟派に屬する男であつた。後上京して菊坂で賣文社似寄りのものをやつて居たが、今はどうしたか知らぬ。同歌も後盛んに合唱せられるや、其の筋では之を禁止した。

いよいよ散會となると、赤旗を打ち振り、革命歌を高唱して居た若人達も外に出た。當時の新聞は此の若人達を硬派と命名し、石川旭山までが軟派に硬派と書いて居る。併し若人達には硬派に居るものは尠い。成る程殊には大杉、山川、堺など硬派に居たものは多かつたが、大杉は知つてゐたが、堺も山川も赤旗を押し立てゝ市中を練り歩くことは知らなかつた。だから之れを硬派といふのは當らない。殊に自ら硬派と稱したのではなく、當時の新聞がこうした方が書くのに都合がよいので、假りに命名したのであるから、誤解すべからず。

六、赤旗の爭奪戰

夏の五時は未だ晝の樣である。錦町通り（商科大學より錦町に至る）は兩側に柳が植えて有た。緑の色濃き柳も、數日來の好天氣で繁つた葉も重さうに枝を垂れて居た。

錦輝館からドヤ／＼出て來た人々の中に、二旒の赤旗を高く捧げ持つたものがある。スルと何處に隱れて居たのか、一隊の警官が飛び出して來て、此の赤旗に追ひ縋つた。そして寄越せ、やらぬとひしめき合つた。其處で之れを見て居た堺は間に這入つて、「旗を卷いて行けばよいだらう」と警官隊をなだめ、若人達には卷いて行くやうに注文した。若人達は承知した。そして卷いて行くこと十間ばかりで、再びパッと之れを擴げて、街頭高く持ち捧げた。赤旗は柳の緑と反映する。白服の巡査は再び追ひ縋つた。やるナ、寄越せとひしめき合ふ。再び堺は其處へ行つて、「卷いて婦人達に預けるから、夫れなら大丈夫だから、」と警官を承知させた。婦人達が之れを持つて行く。二三十間行くと、若人達は再び之れを擴げさせた。

今度は巡査も必死となつて奪はうとする。若人達は之れを奪はれまいとする。婦人達は旗手といふので之れを死守する。某女史の如き旗を奪はんとして寄り來る巡査を足掛ひの柔道の手で見事に投げた。一本の旗が警官隊に奪はれた。若人達は之れを追ひ縋つて取り返し走り來る。警官隊が追つて來て之れを取らうとする。若人達はやらじと爭ふ。他の警官の一隊がモウ一本の旗を奪つて行く。夫れ！と手を分けて之れを奪ひ返す。其の手薄になつた處をねらつて此方、旗を取られる若人達は裾からげで跣足である。警官隊は靴を穿ちキラ／＼する邪魔物を腰にして居る。ともすれば若人達に一籌を輸するかのやうで赤旗は揚々押し立てられる。堺は困つたやうな顏をして、左の示指で右の手の平に置いた卷煙草を一生懸命捻りながら、傍の柳の下に立つてゐる。山川も大きな眼をクカ／＼させながら、眉根に皺を寄せて見て居る。

警官隊は敵し難しと見るや、方針を一變して、之れを引つくゝることにした。勿論後詰の警官隊がドシ／＼繰り出されたことはいふまでもない。二旒の赤旗を死守した若人達も、味方に後詰の兵がなければ、遂に一人殘らず引つくゝられてしまつた。

此の時捕縛された者、仲裁人といふやうな立場にあつた堺山川等が、其の首領として叩き込まれたのは一寸妙であつた

七、人名と刑期

（二年）堺利彦、（同）山川均、（同）大杉榮、（一年半）宇都宮卓爾、（同）百瀬晋、（不敬罪五年）佐藤悟、（一年半）荒畑勝三、（同）森岡永次、（同）村木源次郎　同、未丁年執行猶豫）永保・助

（婦人は何れも長く未決にあつたけれども何れも起訴猶豫で大學本科には這入らなかつた）菅野須賀子、大須賀里子、小暮レイ子、神川松子

◆中島安太郎君より　新劇俳優の女房は長谷茂吉君が勤めたのでした、同君は電鐵職工で、屋外勞働運動に骨を折つた男、大正九年の秋加藤勘十、吉田信、僕などでＬＤＬ團を組織したことがあります。（御申越し多謝）

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

黎明の小作人

中島安太郎

また夜があけんわい。何ごときぢやろ　チリチリ……チリと虫が啼いてけつかる。うゝう、婆あめ、またいゝ氣で眠てる。風があるようたな。雨ぢやないわい。今日は豆をむくかな。向ふの田の畦に小豆の粋がはらはらに落ちてるがをひろてかんなん。あゝあ、今日は三石五斗かな、壹石貳斗の年貢を天引にすると二石一斗殘る、馬の借賃が高かつたわい。やれやれ勿體ない。南無阿彌陀佛、南無阿彌陀佛――またお鐘様がならつしやあらん――うゝう――宅はうなつてゐました。それはわざとらしい唸りです、うめきです。宅の妻も傍に轉がつてゐます。かたい、くわんくわんの布團を敷いて袖のある垢だらけの夜具を頭からかぶつて二人ともぐつすり寢込んでゐたのですが、宅が何かの物音に眼をさましたのはほんとうです。それが何であつたか、妻のみよたつて知らずにねてゐるのだもの、カタンごとごとと云ふ物音はみよはとつくに聞いてゐたのです。あゝ、あれか、てんとはのやつが餌を探しとるがぢやな、と思つて抱いてゐるきよの脊中を撫でゝやりました。子供はまるまると太つてゐます。それこそぐうぐうねこんでゐます。早やこいつが七歳になる、來年から學校へやらんなん。まつ、すえ、とき、きよ、ちよ、梅次郎と兄貴息子の徳市、誰たか彼たかわからぬ程に十人餘の子のことが一度にみよの心へ襲ひかゝつてくる。

おまつは守田の工場へ通つてゐるが古町のあんさまは酵屋でしいとるぢやろ、が冬になると仕事がない、彼女もたいそうすゐわい、餅米を今度來たら五升ほどやらんなん。月給取りのかゝつてしかあのないもんぢや、たまに來た日にや何でも欲しがる奴ぢやこんで來たら、ほうづきに柿、餅と米二升もやるかな、父つあ、なんぢやちゆうてもやらんなん、可哀そうぢやとみよは思つて見たが意氣地のないおちよの亭主のことを考へるとうんざりしました。去年の暮方たつて餅さへつけぬと云ふて泣いて來た――みよはその時のおちよが五番目の子を負つておづおづと泣き聲で門口に立つた姿が忌々しいことのように思はれぬでもありませんがかわいそうにも思はれました。勿論大勢の子供らのことです、あの子にやれはこの子も欲しがる、せがむ、いがむ、泣く、おちよには五人も子がある。まるで芋のような一族であります、古町のお松には子供が大人――と襲のかずが多いのでとてもうつかりしてゐられません。生殖器の濫造的創作の爲、一家の經濟がいつも火の車です。宅は息子の徳のことを思ひ出しました。左程に氣になると云ふ譯ではありませんが昨夜も晩方に歸つて來た。女でもこしらいてなんしとるとよいのぢやが、またはくちをこいとるのぢやろか、あのはくちこきめ、おかげで嫁の來てがないわい――事實三人目の嫁のお時は實家へもどつたきりまた歸つてまゐりません。

今年や餅米が五十錢高いとかひに二石は賣らんなん。ごぼ（寺のこと）へも上げんなんけに、暮方（年末初期をいふ）の拂ひにあやり切れんぢや市之助さあにある。狐島屋にある。魚屋にある。酒屋には二軒とも借があるしと、宅は考へるとうんざりします。稼いでも、働いても現状維持が關の山、收獲は米でそれから年貢米を差し引く殘米にとつて置く。あまりな賣る、それで大家族や娘たちを養つて行く。嫁入りはしてゐるが五六人も子をつれて時に食ひに來る。何んたかたと大威張りで食ひにたかる。北陸地方でも宅の生れた地方が特に賑たしいのであります。ちよはいいたと云つては十五日も食つて行き報恩講が三日、春一回、秋二回のまつり、つまり宅の祭祀以上の何にでもかにでもあつまつては食ふのが、たのしみなのでおります。

それはそうと亭主の宅も女房のみよも、眠られないまゝに今度は話を始めました。娘のきよは可愛い夢路をよちよちたどつてゐます。梅次郎とちよは次の間に汚い、夜具にくるまつて死んだようになつて眠つてゐます。こほろぎがチリチリと啼いてゐて晩秋の寂がたはたまらないほど靜かです。

「それや見たか、俺あ云はんことかい、あの錢は、盆に、村人足に出た錢と、眞瓜や越瓜を賣つた錢があるす、徳がおやつさま（地主）からもろた盆の小使ひ錢もあるぢやがい――どうやらこうやらして十圓揃へておらあ、おまんが、甚吉さあへ持つて行かしたことをなんで知らんこつちやい。」

「おとりや（汝）いつもそんな事云ふわい。甚吉さあのおやつさまが、何でそんな無理云ふもんかい、二度三度！他人の錢が取れるもんかちよつと考ひて見え――」

みよの言葉に宅の返答――いづれも物騒な文句でありますがこれは此の土地一帶の方言で、何のうるほひもない夫婦の寢物語りが始められたまでゞす。

「なあもかあもないわい。大枚な錢をたゞとられされて、おやつさまでも甚でもないわ、おまはんも、おまはんぢや。でかいたらでないか。ふんに、ふんに。」

「おうい、わりやあ――」

「たらくさい。ほんまに。あんまりぢやわい」

村一番の地主の新家である、そして何ごとによらず利益の伴ふ問題には拔け目なく頭を突き出して村中意張り廻る四十男、の甚吉は、こぢんまりとした富を抱いて本家

の威光を笠に非を理に枉げて、他人のこと、詐くとも同族以外の者を、口汚く云ひ罵り、十軒あまりの同族間でも幅を利かし、貧乏人を見ると、威猛高におどし歩き、金を持つた者に遭ふと、からつきし意氣地のない、小部落の餓鬼大將の蔵吉

それに宅ときたらまた、如才のないお馬鹿さん——。持つた者さへ見れば、あることないこと申し上げて御氣嫌伺ひ奉り、先天的に、ごますりに出來あがつてゐるのですからたまつたものではありません。そのくせ、自分の手に合ふ程の弱者、それは極く少數で、家族以外には誰もゐませんが、——に向ふと村の獨者や、獨り立ち者、の前に立ちはだかると蔵吉そつくりな態度で振舞ふのでありますが、これはいつの時代でも絶ゆることのない悲しい利己主義の一表現でしかなかろうと思はれます。かくて宅は田地を賣り拂つた時の口錢の二重取りをまんまとされてしまつたのに遊びないのであります。けれども、そう云ふ時には非常に諦めのいゝ種族に生れついてゐるのですから世の中はありがたいものです。

暗はまだうすらぎません。直感的と云へばそれこそ直感的に宅は土藏の戸前に何かしら、不安を感じたのであります。物音がしたやうでしかたがない。宅はどうやら起きあがりました。うすら寒い風が柿の梢を吹き渡つてゐて　雞のなき聲が何處からか聞こえて來ますガタゴトと戸をこぢあけますとどうでせう米を背負つた黒い男の影が前の田を小ばしりに歩いて行くではありませんか。宅はおどろきとも怖れともあわてともつかぬ、叫び聲を揚げました「ほされ！ほされ！」そうすると黒い影は米俵を背中から振り落してにげ出したので、宅は追つかけて見ました。ところが如何でせう。それが隣の徳なのです。意外でした。それだけ宅はぼんやりしました。新しい米俵が、四斗入の重いからだを。朝顔の紫雲英草の上にしつとりと横たはつてゐるのです。頬被りした徳は米を投出すと同時に一目散に何處へか飛んで行つてしまつたのです宅は泣き出したくなつてぼんやりそこに立ちほけてゐます。

「とうと。（父つさんと云ふ意味）とうと！なんちやつたいの、なんちやつたいの」妻のおみよが、髪振り亂したしどけない姿で洗足のまゝ、そこへ飛び出して來ました。それを見ると宅は急に思ひ出したやうに腹がたつてなりませんでした。

「なんちやい！ど畜生！どすしやはめ、どすしやはめ！（泥棒奴と云ふ意味）

おみよは、今度、餅米をすりむいたら、新米の、うまい牡丹餅をこさへて新小豆を煮たのに黒砂糖を十錢ほど思ひ切つてつけて食はうと思つて口の中でつばきをのんでゐたのでしたのに物騷がしい外の氣配に牡丹餅のまぼろしは消えて、息子の米泥棒を目のあたり見て、亭主のするどい怒りを豫想したので早速家の中へ飛び込んでしまひました。

「畜生！おどれや！餓鬼や！」

としきりにどなり乍ら宅は、俺の投げ出して行つた、米俵四斗入を重そうに、また、もとの土藏の戸前へ運んで行くのですチロ〱虫はちつとも啼いてゐません。夜明けの鐘も、とうになつて柿の枝繁盛な、梢にはきよの欲しがる、霜降り柿の實が黎明の風にぶらん〱とふるへてゐるのです。

（一九二八、一一、一六）

四方山雜詠

森　彬　雄

○

生活につかれた男が二三人野に出て行くよ紅葉が散るよ。

○

牛よりは肥えてゐるよと撫で見る頬のやうな胸よ秋風が吹く。

○

栗の木の下に小供が口開けて落ちて來る實を待てる村の正午頃。

○

俺らが家は寝ながら月を拜めるよ、と隣の爺は瘦我慢いつてら。

○

木枯だ、もつと吹けふけ紅葉がなんだ、俺いらにや眺める暇がないんだ。

○

秋風だ恐い嵐だ手の甲が、ハンマの響で血を吹くからなあ。

○

煙草くれと知らぬ男にねだられし薬中町の赤き夕暮。

○

追はれてる、たれも生活に追はれてる歳暮の銀座に灯のともる頃。

○

若さにあざむかれたる髯男酒屋の棟にタンカ切てる。

紡績女工さんの唄　（豪氣だねの節）

籠の鳥

尼ヶ崎支局　玉智和男　北藏合　作

一つとや　人に知られた騒擾事件の
　[illegible]日本紡績で
　　わしやア働らく

二つとや　二た昔させしに國を出て
　はる〱稼ぎに來たんだが
　　それでたうしたか

三つとや　蜜を集める蜂のよに
　セッセセさ稼いで七十五錢
　　そいつあ喰へんだらう

四つとや　夜の勤めも十二時過
　日に〱我がは削られる
　　いへあたまらない

五つとや　いつも菜っ葉や豆ばかり
　たまにはカシワも[illegible]喰ひは
　　そいつあ人情だもの

六つとや　無理から稼いで常にカゝり
　[illegible]院は入の山
　　その上監督わカアー

七つとや　泣いてこらへた二十年
　それでも未た七十五錢
　　そいつあ怪しからん

八つとや　休の日さて自由なく
　そら門止めで縛られる
　　ほんとに籠の鳥

九つとや　これでも俺等は人間か
　と云ふて社長さん百萬長者
　　そいつあ不屈しざる

十とや　とう〱思ひついた斷[illegible]た
　籠の中で手をつなげ
　　それ旗上げた

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

老勞働者

吉田金重

ぐるりを摺擦と取り圍んだ八疊敷の片側には、二間の押入を打ち抜いて二重にも、三重にも寢臺棚がしつらへてある。隅には虱と、蚤と、南京虫のうよ／＼してゐさうな、垢と脂に汚れ返つた布團が積み重ねられてある。が、私がこゝへ這入つてまづ眼にとめたのはそれらではなくて、寢臺棚の前に胡坐をかきながら、世間話に耽つてゐる六十の坂を四五年も前に越したであらう、白髮頭の老人である。しかし不思議なことには、肉體的にはひどく疲憊してゐさうなにもかゝはらず、聲音の如何にも浮き／＼と愉快さうなことよ——だが私は憂鬱にも、未來の自分を彼の中に見出さずにはゐられなかつたのである。私は嘗て「……親もなければ兄弟もなく、家や妻子などはもとより、一錢の蓄へすらなく旅から旅へと漂浪ひ歩く……しかしそれは人ごとではなく、自分の身に迫つて來た事實として痛切である……」など、創作の中に一人物の生活を描いたことがある。まつたく現在の私は、彼との間の距離のあまりに接近し過ぎてゐるのに驚かされたのだ。

老人は富田といつた。彼は電車賃のない私を誘つて、一里餘の道程を歩きながらよく話した。二十歳の時水戸在の實家を飛び出し、東京で十年餘も俥夫をしながらも、たゞの一度も故郷へ音信しなかつたこと、その後土方、車力など轉々として道樂の限りをつくしたこと、ところが半身不隨の妻を持てあまし、妻と先夫との間に生れた息子の家へ押しやつて訴へられてゐること——と次から次へと告白はつきない。かくして勞働の現場に辿り着いた彼は、一つぱしの利かない氣の熟練勞働者であつた。

利かない氣の彼は、土方仕事にはかなり自信をもつて、馴らない青年勞働者を敎へやうとした。が、たま／＼ある日——それは忘れもしないメーデーの五月一日だ——昨夜、夜業までしたにかゝはらず、私達は否應なく勞働にかり出された。現場の世話燒は、この勞働部屋でももつとも口やかましい村本であつた。仕事は他の現場よりも三十分もかゝりが早かつた。

富田は掘鑿をやつた。彼は浮彫の如く皺を刻んだ顏にたら／＼脂汗を流しながら、重い鶴嘴を振り上げ振り下した。負けじ嫌ひな彼も、遂に苦しさうであつた。私は他の勞働部屋から通つて來る若い男——某大學を出た藤村といふ——と相棒に石を擔いだ。監督は右往左往しながら、人夫を蛆虫のやうに吐鳴りつけた。

「莫迦！駄目ぢやないか、そんなものを一本や二本擔いでどうするんだ！うんと擔げうんと……」

「畚の繩が切れてしまはあ」

監督の怒號に酬ひたのは、私の相棒であつた。些か自信を傷けられたらしい監督は

「畚なんか遠慮するな、切れるまで擔げ……」

と眼を怒らした。

「畚が切れるのはいゝが、俺達の肩が切れてしまはあ」

「そんな肩は打つ捨つてしまへ！」

「おゝ、打つ捨つてやらあ」藤村は畚を投げやると「君よさないか？僕はよしたぜ」

「しかし君……」

躊躇してゐる私を見向きもせず、藤村は辨當箱を手に摑むとトッ／＼と去つてしまつた。

「相棒がなくなつた、俺もよして歸らうか？」しかし考へてゐると私は、晒付の勞働部屋に租臥してゐるのではないか。それに世話燒は村本ではないか。私は藤村の去つて行つた方を眺めながら、意久地ない自分を嘲つた。この時つい背後の、深い掘鑿の中にいかさひの聲を聞いた。

「ぢや手前は何しに來たんだ、土方をやりに來たのぢやないといふんか！土方部屋にゐて土方がいやだつたらよしたらいゝんだ！」

怒たれてゐるのは、村本の弟分ともつて任じてゐる若い男だ。それに對して富田は何か呟いてゐるやうではあつたが、私の耳には聞き取れなかつた。が、それにしても私は、日頃の利かない氣の老勞働者が氣の毒になつて來た。といつて私には、彼を辯じてやるだけの勇氣がなかつた。まつたくその頃の私には、勞働に對して老勞働者ほどの自信すらなかつたから。

「儂はいぬる（歸る）から、村本にさういつて置いてくれないか、儂が村本にいふと怒られるからな……」

私が土管埋めをしてゐる時、つい向ふの家陰から呼びながらいつたのは富田であつた。いつになく凋れ返つてゐる彼の顏をしみ／″＼見やりながら、

「あゝさうかい、まつたく氣の毒だね、僕も多分、この調子ぢや喧嘩をして歸るやうになるかも分らん」と、私は宥めるやうにいつた。

「ぢや賴むぞ……」

富田はよろ／＼、力なく歸つて行つた。私は老勞働者のうしろ姿を見送りながらも、この時ほど蕭條たる氣持になつたことはない。しかし、私の報告を聞いた村本は案の

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

如く、

「生意氣に老耄れた、歸つたら打つはたいてくれる……」と憤慨した。

「あんな現場はよした」

どうにかその一日が終つて、部屋へ歸つた私は、食卓に就きながら誰にとなくいつた。そして、緣臺棚の前に小さく縮こまつてゐる富田の方を窃見した視線を、食卓を自分一人で占めるかのやう大胡坐をかき、のさばり返つて獨酌に傾けてゐる村本の顔にそゝいだ。果たして、村本の眼は鋭く輝いた。

「なんたつて、あんな現場はよしたつて?ちやらくさい、生意氣いふなッ!」

「何が、意氣たね?僕らは厭やな勞働を強請される必要はないんだから」

「理窟を吐かすな、打つはたかれるぞ!」

「勝手にしろ!たが、僕にたつて手足はあるからね……」

「何を!」

堪らなさそう、村本は眉根をピリ〳〵ッと顫はせるや、いきなり立ち上がつた。この騒ぎに吃ふやう、それが懲つたのは日頃から村本を快よく思つてゐない、のんたくれの林田であつた。△△△大學の理科部を途中で退學し、朝野巡查を經で失敗し、土木建築請負の組の現場監督を上役と喧嘩をして放り出した林田は、すべてを飲み了ほせねば氣がすまないといつたやうな無頼漢であつた。この無頼漢が私と接近し、打ち解けて語り合ふやうになつたのもこの頃からであつた。それにしても私に對する激怒の突發したゝめに村本は、富田のことはすつかり忘れてゐるかのやうであつた。

村本の話や、林田に對する憎惡は、日とゝもに露骨になつて行つた。部屋に寢泊りしてゐる幾十の荒い勞働者達は、村本の眉根の動きのみを氣にした。隨つてそれらは私や、林田には疎々しくなつて行つた。

私は林田に誘はれて入浴に出かけ、そこらあたりを散歩し、たまにはバーの交際までさせられた。曾てどうにもならない孤獨の寂寥を酒に慰め、酒に深入りして失敗に失敗を重ねた私は――しかもこゝ最近、酒のためにたつた一人の戀人を失ひ、親友に去られ、生活すら放棄した私は、殘酷にもこの新しい友を求めた。

「林田君、僕らはこのまま滅んぢやならない、どうかして甦らなくちやならない……それにはまづ、酒を禁めなきやならん、少くとも謹まなくちや駄目だよ」

「分つてるよ……しかし吉田君、現在の僕らに何の慰安があるんだ?酒でも飲まなくてやり切れるもんか……」

「そこが忍耐だよ、林田君……僕は宗教といふものには幻滅を感じてゐる、が、その部分的な言葉の中には眞理がある、たとへば忍耐は練達を生じ、練達は希望を生ず――てなね、その忍耐だよ、克己だよ……」

「あはゝゝまさかその希望つてなあ何たらうな、奴隷を強いる別名ぢやなからうね?」

林田は笑ひながらも、盃を返さうとはしなかつた。しかし、私は更にいふべき言葉をもたなかつた。すべてを心得てゐる苦勞人に強いて意見はノンセンスであつたから――況んや私は、強いて差しつけられた盃を、三度に一度は受けてゐたではないか。

「吉田さん、僕は弱つてゐるんですがね……あの富田さんがこの部屋を出て、一しよに間借りでもしないかといふんです……」

たま〳〵私にかうした泣き言を浴せかけたのは、つい近北海道の監獄から出て來た銀行員上りの酒井であつた。土方仕事から歸つて來ると、裏の空地に出てハーモニカを吹いてゐる酒井には、どこかしんみりしたところがあつたので、さうした相談を富田から持ちかけられたのも、無理からぬことであつた。しかし、私は極力すゝめてやつた。

「いゝぢやないですか、あの老人はあれでなかなか働きもするし、酒も飲まないし……一しよに間借りするには恰好とせう、それやさうしておやんなさい、喜ぶでせうから……まつたく年老つて可哀想な……」

「でも、僕はいづれこゝを出なきやならんのです、こゝには腰かけにゐるんですからね……吉田さん、あなた何でしたら?」

「それや、酒井君がいけないとなら……しかし僕は、間借りするといつたて……」

まつたく豫外の下宿を飛び出し、更に行くところを失つてこの勞働部屋にのめり込んだ私には、思ひもよらないことであつた。それに私はこゝ數日のうちに、林田などゝ田舍方面へ金鑛の手傳ひを目的に、漂泊の旅に出るかも分らなかつたから。ところがそれを知らない酒井は、私のいつたことを、富田に打ち明けてしまつたらしい。なぜなら富田はその後、私により親まふとして近づいて來たから――しかし私は老勞働者の要望を裏切らなければならなかつた。

「おつさんどうだい、上州方面へ出かける氣はないかい?金鑛發掘に來たやうだし……」

「お前らはほんとうに行くのかい?どうもさうぢやないかと思つたが……僕も行つて見たいが、何しろやつたことがないんでなあ、經驗なんか……やつたことがないと工合が惡いさうたから……それにお前らと違つて僕は年老つてるしなあ……」

「僕らたつて經驗はないよ、經驗がなくていけなきや、他にまた何かやることがあると思ふんた……もしなかつたら田舍をほつき廻つて見るのも一興たらう?」

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

「それやさうだが、あんまり無理なことをするもんぢやないぜ、それよりかやつはり東京へ落ち着いてゐた方が得策だと思ふ。こんな部屋へゐちや駄目だが、狭い室でも借りてゐれは、案外いゝ金儲けになる仕事へでも勝手に行けるからなあ……」

「まあ、とにかく僕らは行つて見る氣だ、何も經驗だよ、はゝゝ」

內閣總理大臣官舍の尨大な庭園內に、植木屋の手傳ひをしながら監督に見え隱れ話し合つたのは五月に入つて間もない麗かな長閑な日であつた。ところが今まで愉快さう、元氣さうに見えた老勞働者の面には、思ひなしか――もつともそれは後になつて分つたことではあるが――どことなく憂色が漂つて見えた。それは鬱々として、口數さへ多く利かなくなつたことによつて察しられた。

その夜私は、の勞働部屋にゐる、同じ目的をもつた連中とつれ立つて外出した。そして歸つて來たのは、十二時か五分前であつた。寢床に入らうとした私はふと思ひ出したやう、押入れ前を見やつた。が、どうしたことか、富田の寢姿はなかつた。いつも早くから臥してゐる老勞働者の、あの白髮頭は見えたかつた。

「あの富田老人はどうしたらう？」

「年老りになつて、たまの憂さ晴らしもあらうぢやないか――」

氣がゝりな私の疑問に答へたのは、村田であつた。が、歸つて來るべき筈の老勞働者はそれから二日經つても、三日經つても、私らがその部屋を去るまでも歸つて來なかつた。恐らく、永久に歸つて來ないであらう？（續く）

月刊

第一戰線

一部 二十錢

〇合同問題に就いて……………鈴木茂三郎
〇何が眞の左翼なるか…………山川均
〇田中外相か？久原外相か……永見政保
〇二つの公開狀……………………第一戰線同盟
〇婦人より見たる議會…………南條しづ子
〇レーニンの忘命當時の教訓……古田富郎
〇カールとローザについて………水野晴雄
〇幸德とは？………………………伊藤喜多郎
〇街上に拾ふ（探偵小說）………山川亮
〇自働車（戯曲）…………………村井秀雄

發行所 東京市荏原町戸越三六九

第一戰線同盟

進め社だより

■昭和四年を迎ふ。五箇年間を切つかけとしての全無產大衆の合同へ合同への潮流たる時、この中にも吾等は戰線を整理統一して支配階級の牙城に肉迫せねばならぬ。こゝに、諸氏と共に、愈々奮闘せん事を誓ふ。

■この勇氣に滿ち、輝ける新年に、吾社は同志上杉を軍隊に送る事を悲しむ。しかしながら、よく抗爭するものは、彼等の牙城に潜入すべきであらう。同志伴野の「內務班へ行く者におくる」は、同君がかつて軍隊生活をなせし赤裸々な經驗である。敵は果して何者ぞ

■本誌は同人羽田君の五箇年計劃批判論と、本號の新居格氏の論文、及び山川大將にあつて勇敢に抗爭されたる吉崎君の論文、辻井氏の勞働者の見たる知識階級問題、加藤氏の特殊論文、いづれも輝く新年の劈頭を飾るものであらう。

■岡野辰之介氏の社會主義運動思出話を、堺利彦氏あたりが、間違ひだらけだと云つてゐられるさうだが、岡野氏は古い運動者で、公平な人であるから單にこの本、あの本から取りあつめた近藤の記述とは違ふ。自分の方ばかり、いゝ樣に誇大に書きたてる人とは違ふ。讀者諸君は安心して讀まれたい。

■進め研究會は愈々經營者諸氏の支持を得て盛會となつた。何、未參加の諸氏は進んで御出席を乞ふ。御希望の方は、大至急ハガキで申込んでおかれたい。其の都度御通知する。

■進め支局開設希望者が毎日の樣に來て多忙を極めてゐる。或る地方では支局の爭奪戰まであるさうだが、お互に同志だ。本部は諸氏の誠に感謝するはかりだ。支局創設に取りかゝれ。

■農村より、工場より、燃ゆるが如き感激をあげて進めを守れ。退くを知らぬ、進めの氣持で昭和四年を邁進しようぢやないか（編輯者）

■入社して以來、二ケ年の月日は夢の樣に過ぎた。その間諸氏の鞭撻の下に、與へられた持場を守つて來たのであつたが、愈々一月十日は軍隊に行く事となつて、暫らくの間、同志諸兄への挨拶をしなくてはならぬ。私が在社當時において犯したる凡ての誤謬の一切は、諸氏の批判によつて清算され、新しき昭和四年の闘爭を開始せられる事であらう。軍服を着た勞働者となり、戰ひの爲の兵士となる私の思想は、入營によつて、愈々強固となるであらう。新しき闘爭舞臺に入るに際して、歸り來る日迄の同志に對して一言別離の言葉を送る。尚、私は島根縣那賀郡濱田二十一聯隊第六中隊に入る事となりましたから、御通信下さる事をお願ひします（上杉）

進め研究會に參加しろ

友人を誘つて一人でも多く出席せよ

◆一月十日は午後六時から

第六回研究會だ

◆講師は

清水武雄氏

◆問題は時局經濟問題

◆場所は進め社本部

分らぬ事を準備して

進め研究會に參加せよ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

喜谷實母散

銘酒 澤之鶴

皆様の言葉「買物は常に丸菱」

丸菱呉服店

東京丸ビル

お買物は三越へ

品質が良く、新流行品揃ひにて、價もまた低廉です

三越はデパートメント、ストーアですから日常生活に御必要なお品は大抵揃へてあります・何と申しましても良い品は東京に限ります、東京でも三越の品ならばお安心してお買物が出來ます。

地方からのお註文はお手紙にて通信販賣部へ御一報下さいますれば迅速にお送り致します

三越

東京駿河町

週刊 月二十圓 一年二百圓

日本社會運動通信

發行所 東京市麴町區内幸町一の五中林ビル内 日本社會運動通信社

日勞黨愛媛支部機關紙

月刊 平民 一部五錢

發行所 宇和島市和靈町東通平民社

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

（要旨）

小粒仁丹

◎高貴薬サフランを倍加して特製す

大粒仁丹

○歯の為に一番よい

仁丹のハミガキ

日・英・米・佛 專賣品

仁丹歯ブラシ

（大）

昭和新春

謹んで昭和四年の春を迎へ奉る
今年は左の信條の下に一層努力致しますれば倍舊の御愛顧を願上ます
○他店より高い品を賣らぬこと
○他店より惡い品を賣らぬこと

大阪　大丸呉服店　心齋橋

森永ミルクキヤラメル

一個五錢・十錢

大正十二年一月三十日第三種郵便物認可
昭和四年一月一日發行
同　三年十二月廿八日印刷納本
第七年第一號
毎月一回一日發行
定價一部十錢（郵税五厘）
半年六十錢一年一圓（税共）
廣告料一行一圓一頁三百圓
發行所　東京市芝區南佐久間町二丁目十八番地（振替東京六九八五一）進め社本部
發行編輯兼印刷人　神庭仲之助
大阪市淀川區十三西之町三　大阪事務所